

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-150685

(43)Date of publication of application : 24.05.2002

(51)Int.Cl. G11B 20/10
G10L 19/00
G11B 20/12
G11B 27/00
G11B 27/034

(21)Application number : 2001-290275

(71)Applicant : SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD

(22)Date of filing : 25.03.1998

(72)Inventor : HEO JUNG-KWON

(30)Priority

Priority number : 09231595

Priority date : 27.08.1997

Priority country : JP

1997 9710330

25.03.1997

KR

1997 9751861

09.10.1997

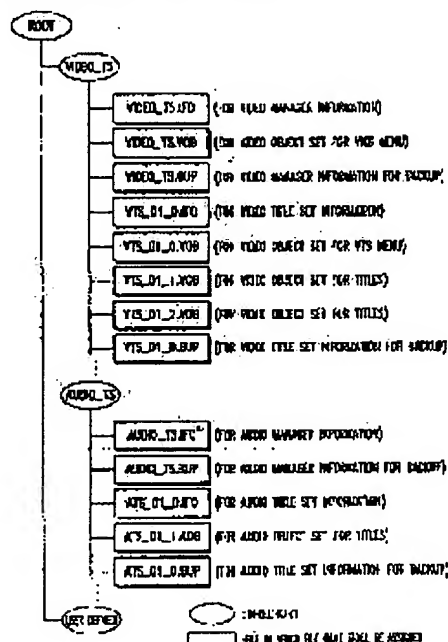
KR

(54) METHOD AND DEVICE FOR RECORDING ON OR STORAGE IN DVD DISK

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a DVD(Digital Versatile Disk) audio disk on which a sampled digital audio signal can be recorded in a linear PCM(Pulse Code Modulation) system up to the number of channels limited by a data transmission speed.

SOLUTION: Position information of an AMG(Audio Manager) is recorded in an audio TS(Title Set) directory placed in a disk information area, and position information of each audio title of a disk is recorded in the AMG, and ATSI MAT(Audio Title Set Information Management Table) and many AOBs(Audio Objects) are continuously coupled to constitute the audio title, and an audio encoding mode, first to third quantization bits, first to third sampling frequencies, and decoding algorithm information related to the number of audio channels are recorded in audio stream attributes of the ATSI, and audio data corresponding to the decoding algorithm recorded in the audio stream attributes is stored in the AOB and is constituted as an audio pack.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-150685

(P2002-150685A)

(43) 公開日 平成14年 5 月24日 (2002. 5. 24)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコ-ト* (参考)
G 1 1 B 20/10	3 1 1	G 1 1 B 20/10	3 1 1 5 D 0 4 4
G 1 0 L 19/00		20/12	5 D 0 4 5
G 1 1 B 20/12		27/00	D 5 D 1 1 0
27/00		G 1 0 L 9/18	M
27/034		G 1 1 B 27/02	H
審査請求 有 請求項の数43 O L (全 46 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願2001-290275(P2001-290275)
(62) 分割の表示 特願平10-98489の分割
(22) 出願日 平成10年 3 月25日 (1998. 3. 25)

(31) 優先権主張番号 1 9 9 7 1 0 3 3 0
(32) 優先日 平成 9 年 3 月25日 (1997. 3. 25)
(33) 優先権主張国 韓国 (K R)
(31) 優先権主張番号 1 9 9 7 5 1 8 6 1
(32) 優先日 平成 9 年10月 9 日 (1997. 10. 9)
(33) 優先権主張国 韓国 (K R)
(31) 優先権主張番号 特願平9-231595
(32) 優先日 平成 9 年 8 月27日 (1997. 8. 27)
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

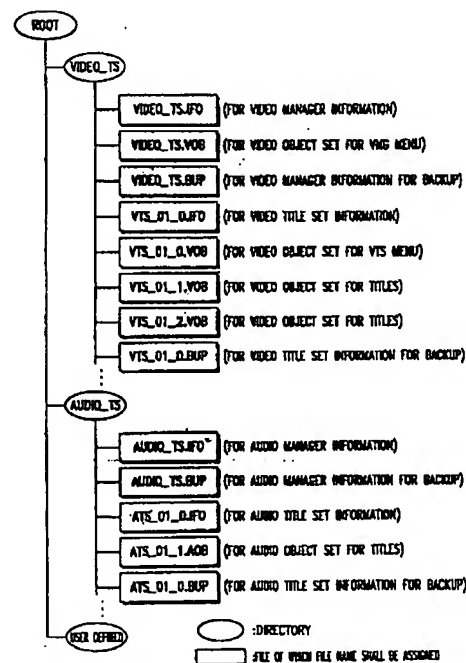
(71) 出願人 390019839
三星電子株式会社
大韓民国京畿道水原市八達区梅灘洞416
(72) 発明者 許 丁權
大韓民国ソウル特別市松坡區新川洞 (番地
なし) 薔薇アパート15棟703號
(74) 代理人 100064908
弁理士 志賀 正武 (外 1 名)
Fターム(参考) 5D044 AB05 BC03 CC06 DE02 DE03
DE15 DE25 DE37 DE44 DE54
EF05 GK08 GK12
5D045 DA20
5D110 AA15 AA27 CF05 CJ01 CJ06
DA04 DA11 DB02 DE01

(54) 【発明の名称】 DVDディスクに記録あるいは貯蔵する装置及び方法

(57) 【要約】

【課題】 サンプリングされたデジタルオーディオ信号をデータの伝送速度によって制限されるチャンネル数まで線形PCM方式で記録することのできるDVDオーディオディスクを提供する。

【解決手段】 ディスク情報領域に位置する、オーディオ_TSディレクトリに、AMGの位置情報を記録し、AMGにディスクの各オーディオタイトルの位置情報を記録し、前記オーディオタイトルをA T S I _M A Tと多数のA O Bに連続連結して構成し、前記A T S I のオーディオストリームアトリビュートにオーディオ符号化モード、第1〜第3量子化ビット、第1〜第3サンプリング周波数及びオーディオチャンネル数に関する復号化アルゴリズム情報を記録し、前記A O Bに、前記オーディオストリームアトリビュートに記録された復号化アルゴリズムに対応するオーディオデータを貯蔵しオーディオバックから構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 オーディオタイトル(ATS)に関する情報を持ったオーディオ管理(AMG)を有するDVDオーディオフォーマットの有効なデータとしてデータを符号化する符号化部と、

DVD上にデータを記録する光学ピックアップとを具備し、

各ATSは、DVDのオーディオタイトルセット(AUDIO-TS)中のオーディオタイトルセット情報とこれに続く連続したオーディオオブジェクト(AOB)とを有してなることを特徴とするDVDにデータを記録する装置。

【請求項2】 前記符号化部は、DVDの複数のオーディオストリーム中にデータを貯蔵し、

前記オーディオストリームは、対応する拡張アルゴリズムを用いた、線形PCMオーディオストリームまたは圧縮符号化オーディオストリームであることを特徴とする請求項1に記載の装置。

【請求項3】 再生すべきデータと、その再生すべきデータに関する情報とを生成する符号化部と、

DVDオーディオのデータ領域中に再生すべきデータを貯蔵するとともに、DVDオーディオの情報領域中に再生すべきデータに関する情報を貯蔵するための光学ピックアップとを具備し、

前記情報領域は、ビデオタイトルセット(VIDEO-TS)と、オーディオタイトルセット(AUDIO-TS)のディレクトリを有し、

前記AUDIO-TSディレクトリは、オーディオタイトルに関する情報を持ったオーディオ管理(AMG)情報を有し、

前記データ領域は、オーディオタイトルセット情報(ATS1)とこれに続く複数の連続したオーディオオブジェクト(AOB)を持ったオーディオタイトルを有し、前記ATS1は、オーディオ符号化モードと、再生すべきデータに対応する第1・第2・第3量子化ビット数と、再生すべきデータに対応する第1・第2・第3・第4・第5・第6サンプリング周波数と、再生すべきデータのオーディオチャンネル数に関する復号化アルゴリズム情報とを持った複数のオーディオストリームアトリビュートを有し、

各AOBは、オーディオストリームアトリビュート中に貯蔵された復号化アルゴリズムに対応するオーディオデータとともに記録された複数のオーディオバックを有することを特徴とするDVDオーディオディスクにデータを記録する装置。

【請求項4】 前記オーディオ符号化モードが線形パルス符号変調(PCM)オーディオである場合、符号化部は、次式によって最大オーディオチャンネル数を決定することを特徴とする請求項3に記載の装置。

【数1】

$$N = \frac{Mby}{Fs * Qb},$$

(ここでFsはサンプリング周波数(Hz)、Qbは量子化ビット数、MbyはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、NはDVDオーディオディスクのデータ転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大オーディオチャンネル数である。)

10 【請求項5】 前記オーディオ符号化モードが圧縮符号化システムである場合、符号化部は、次式によって最大オーディオチャンネル数を決定することを特徴とする請求項3に記載のDVDオーディオディスクにデータを記録する装置。

【数2】

$$N = \frac{Mby * Ccy}{Fs * Qb},$$

20 (ここでFsはサンプリング周波数(Hz)、Qbは量子化ビット数、MbyはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、CcyはDTS圧縮符号化システムに基づく圧縮比、NはDVDオーディオディスクのデータ転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大オーディオチャンネル数である。)

【請求項6】 前記オーディオ符号化モードが線形パルス符号変調(PCM)オーディオである場合、符号化部は、それぞれ16ビット・20ビット・24ビットである第1～第3の量子化ビット数と、それぞれ44.1KHz・88.2KHz・176.4KHzである第1～第3のサンプリング周波数とを決定するとともに、最大オーディオチャンネル数が8であり、チャンネル数は次式によって決定されることを特徴とする請求項3に記載の装置。

【数3】

$$N = \frac{Mbr}{Fs * Qb};$$

40 (ここでFsは再生すべきデータのサンプリング周波数(Hz)、Qbは再生すべきデータの量子化ビット数、MbrはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、NはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大記録チャンネル数である。)

【請求項7】 前記オーディオ符号化モードが擬似無損失圧縮符号化方式である場合、符号化部は、それぞれ16ビット・20ビット・24ビットとなるように圧縮前に再生すべきデータの第1～第3の量子化ビット数と、それぞれ44.1KHz・88.2KHz・176.4KHzである第1～第3サンプリング周波数とを

決定するとともに、最大オーディオチャンネル数が8であり、チャンネル数は次式によって決定されることを特徴とする請求項3に記載の装置。

【数4】

$$N = \frac{Mbr * Ccr}{Fs * Qb};$$

(ここでFsは再生すべきデータのサンプリング周波数(Hz)、Qbは再生すべきデータの量子化ビット数、MbrはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、CcrはDTS圧縮符号化システムに基づく圧縮比、NはDVDオーディオディスクのデータ最大転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大記録チャンネル数である。)

【請求項8】 前記符号化部は、複数のオーディオストリーム中のDVDオーディオに関するデータを貯蔵し、前記オーディオストリームは、線形PCMオーディオストリームまたは対応する拡張アルゴリズムを使用した圧縮符号化オーディオストリームであることを特徴とする請求項3に記載の装置。

【請求項9】 再生すべきデータとこの再生すべきデータに関する情報とを生成する符号化部と、DVDオーディオディスクのデータ領域に再生すべきデータを貯蔵するとともに、DVDオーディオディスクの情報領域に情報を貯蔵する光学ピックアップとを具備し、

前記情報領域は、ビデオタイトルセット(VIDEO-TS)とオーディオタイトルセット(AUDIO-TS)のディレクトリを有し、

前記AUDIO-TSディレクトリは、オーディオタイトルに関する情報を持ったオーディオ管理(AMG)情報を有し、

前記データ領域は、オーディオタイトルセット情報(ATSI)とこれに続く複数の連続したオーディオオブジェクト(AOB)を持ったオーディオタイトルを有し、前記ATSIは、オーディオ符号化モードと、再生すべきデータに対応する第1・第2・第3の量子化ビット数と、再生すべきデータに対応する第1・第2・第3・第4・第5・第6サンプリング周波数と、再生すべきデータのオーディオチャンネル数に関する復号化アルゴリズム情報とを持った複数のオーディオストリームアトリビュートを有し、

各AOBは、オーディオストリームアトリビュート中に貯蔵された復号化アルゴリズムに対応するオーディオデータとともに記録された複数のオーディオバックを有し、

前記光学ピックアップはDVDビデオディスクのデータ領域中のビデオデータを貯蔵することを特徴とするDVDオーディオディスクとDVDビデオディスクに関するデータを記録する装置。

10

20

30

40

50

【請求項10】 前記符号化部は、複数のオーディオストリーム中のDVDオーディオに関するデータを貯蔵し、

前記オーディオストリームは、線形PCMオーディオストリームまたは対応する拡張アルゴリズムを使用した圧縮符号化オーディオストリームであることを特徴とする請求項9に記載の記録装置。

【請求項11】 前記オーディオ符号化モードが線形パルス符号変調(PCM)オーディオである場合、符号化部は、次式によって最大オーディオチャンネル数を決定することを特徴とする請求項9に記載の装置。

【数5】

$$N = \frac{Mby}{Fs * Qb};$$

(ここでFsはサンプリング周波数(Hz)、Qbは量子化ビット数、MbyはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、NはDVDオーディオディスクのデータ転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大オーディオチャンネル数である。)

【請求項12】 前記オーディオ符号化モードが圧縮符号化システムである場合、符号化部は、次式によって最大オーディオチャンネル数を決定することを特徴とする請求項9に記載のDVDオーディオディスクにデータを記録する装置。

【数6】

$$N = \frac{Mby * Ccr}{Fs * Qb};$$

(ここでFsはサンプリング周波数(Hz)、Qbは量子化ビット数、MbyはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、CcrはDTS圧縮符号化システムに基づく圧縮比、NはDVDオーディオディスクのデータ転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大オーディオチャンネル数である。)

【請求項13】 前記オーディオ符号化モードが線形パルス符号変調(PCM)オーディオである場合、符号化部は、それぞれ16ビット・20ビット・24ビットである第1～第3の量子化ビット数と、それぞれ44.1KHz・88.2KHz・176.4KHzである第1～第3のサンプリング周波数とを決定するとともに、最大オーディオチャンネル数が8であり、チャンネル数は次式によって決定されることを特徴とする請求項9に記載の装置。

【数7】

$$N = \frac{Mbr}{Fs * Qb};$$

(ここでFsは再生すべきデータのサンプリング周波数(Hz)、Qbは再生すべきデータの量子化ビット数、MbrはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、NはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大記録チャンネル数である。)

【請求項14】 前記オーディオ符号化モードが擬似無損失圧縮符号化方式である場合、符号化部は、それぞれ16ビット・20ビット・24ビットとなるように圧縮前に再生すべきデータの第1～第3の量子化ビット数と、それぞれ44.1kHz・88.2kHz・176.4kHzである第1～第3サンプリング周波数とを決定するとともに、最大オーディオチャンネル数が8であり、チャンネル数は次式によって決定されることを特徴とする請求項9に記載の装置。

【数8】

$$N = \frac{Mbr * Ccr}{Fs * Qb};$$

(ここでFsは再生すべきデータのサンプリング周波数(Hz)、Qbは再生すべきデータの量子化ビット数、MbrはDVDオーディオディスクの最大データ転送速度(Mbps)、CcrはDTS圧縮符号化システムに基づく圧縮比、NはDVDオーディオディスクのデータ最大転送速度とサンプリング周波数と量子化ビット数とによって決定される最大記録チャンネル数である。)

【請求項15】 オーディオデータおよびオーディオデータの制御情報を生成する符号化部と、DVDのオーディオディレクトリ中の前記オーディオデータおよび前記制御情報を記録する光学ピックアップとを具備してなることを特徴とするDVD上にオーディオデータとオーディオデータの制御情報を記録する装置。

【請求項16】 前記符号化部は、176.4kHzまたは192kHzのサンプリング周波数でオーディオデータをサンプリングすることを特徴とする請求項15に記載の装置。

【請求項17】 オーディオデータを符号化する符号化部と、オーディオデータを記録する光学ピックアップとを具備し、オーディオタイトルは、それぞれ、オーディオタイトルセット管理テーブルとこれに続く複数の連続したオーディオオブジェクトを有し、複数のオーディオストリームアトリビュートは、それぞれ、オーディオ符号化モードと、量子化ビット数と、サンプリング周波数と、DVDのオーディオデータのオーディオチャンネル数に関する復号化アルゴリズム情報とを有し、

各オーディオオブジェクトは、オーディオストリームアトリビュート中に貯蔵された復号化アルゴリズムに対応するオーディオデータの一部を持った複数のオーディオバックを有することを特徴とするDVD上にオーディオ

データを記録する装置。

【請求項18】 各オーディオバックは、バックヘッダと、バケットヘッダと、サブストリーム識別値と、スタッフィングフレーム情報と、オーディオフレーム情報と、オーディオデータの一部とを具備してなることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項19】 前記バックヘッダは14バイトであり、前記バケットヘッダは1バイトであり、前記サブストリーム識別値は1バイトであり、前記スタッフィングフレーム情報は1バイトであり、前記オーディオフレーム情報は3バイトであり、前記オーディオデータの一部は線形パルス符号変調(PCM)データで1バイトから2013バイトであることを特徴とする請求項18に記載の装置。

【請求項20】 前記オーディオバックは、バックヘッダと、バケットヘッダと、サブストリーム識別値と、オーディオフレーム情報と、オーディオデータの一部とを具備してなることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項21】 前記バックヘッダは14バイトであり、前記バケットヘッダは1バイトであり、前記サブストリーム識別値は1バイトであり、前記オーディオフレーム情報は3バイトであり、前記オーディオデータの一部はドルビー(登録商標)AC-3データで1バイトから2016バイトであることを特徴とする請求項20に記載の装置。

【請求項22】 前記各オーディオバックは、バックヘッダと、バケットヘッダと、オーディオデータの一部とを具備してなることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項23】 前記バックヘッダは14バイトであり、前記バケットヘッダは1バイトであり、前記オーディオデータの一部はMPEGデータで1バイトから2020バイトであることを特徴とする請求項22に記載の装置。

【請求項24】 前記オーディオバックは、バックヘッダと、主オーディオフレームの第1バケットヘッダと、主オーディオフレーム中のオーディオデータの第1部分と、拡張オーディオフレーム情報の第2バケットヘッダと、

拡張オーディオフレーム中のオーディオデータの第2部分とを具備してなることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項25】 前記バックヘッダは14バイトであり、

前記第1パケットヘッダは1バイトであり、

前記オーディオデータの第1部分はMPEGデータで1バイトから1152バイトであり、

前記第2パケットヘッダは1バイトであり、前記オーディオデータの第2部分はMPEGデータで1バイトから1584バイトであることを特徴とする請求項24に記載の装置。

【請求項26】 前記各オーディオバックは、オーディオデータのサンプリングの数に基づいて増加するパディングパケットを具備してなることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項27】 前記サンプリング周波数は約48KHzであり、

前記量子化ビット数は24ビットであり、

前記オーディオデータが線形パルス符号変調(PCM)データの場合、前記オーディオチャンネル数は10であることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項28】 前記オーディオデータの圧縮率は無損失圧縮符号化の場合に約2:1であり、擬似無損失圧縮符号化の場合に約4:1であることを特徴とする請求項17に記載の装置。

【請求項29】 オーディオ情報を符号化する符号化部と、

ビデオディレクトリとオーディオディレクトリの両方がオーディオ情報だけを含むように、DVDオーディオディスクのビデオディレクトリとオーディオディレクトリの両方にオーディオ情報を記録するための光学ピックアップとを具備してなることを特徴とするDVDオーディオディスクに関するオーディオ情報を貯蔵する装置。

【請求項30】 データとこのデータに関する情報を符号化し、

DVDオーディオディスクのデータ領域中にデータを記録するとともに、DVDオーディオディスクの情報領域中に再生すべきデータに関する情報を記録し、

前記情報領域はビデオタイトルセット(VIDEO-TS)とオーディオタイトルセット(AUDIO-TS)のディレクトリを有し、

前記AUDIO-TSディレクトリは、オーディオタイトルに関する情報を持ったオーディオ管理(AMG)情報を有し、

前記データ領域は、オーディオタイトルセット情報とこれに続く複数の連続したオーディオオブジェクト(AOB)を持ったオーディオタイトルを有し、

前記ATSは、オーディオ符号化モードと、再生すべきデータに対応する第1・第2・第3量子化ビット数

と、再生すべきデータに対応する第1・第2・第3・第4・第5・第6サンプリング周波数と、再生すべきデータの多数のオーディオチャンネルに関する復号化アルゴリズム情報とを持った複数のオーディオストリームアトリビュートを有し、

前記AOBは、オーディオストリームアトリビュート中に貯蔵された復号アルゴリズムに対応するオーディオデータとともに記録された複数のオーディオバックを有することを特徴とするDVDオーディオディスク上に、データと、データに関する情報とを記録する方法。

【請求項31】 データと、このデータに関する情報とを符号化し、

DVDのデータ領域にデータを記録するとともにDVDの情報領域に再生すべきデータに関する情報を記録し、前記情報領域は、ビデオタイトルセット(VIDEO-TS)のディレクトリとオーディオタイトルセット(AUDIO-TS)のディレクトリを貯蔵し、

前記AUDIO-TSは、オーディオタイトルに関する情報を貯蔵するオーディオ管理(AMG)情報を有し、前記VIDEO-TSは、ビデオタイトルに関する情報を貯蔵するビデオ管理(VMG)情報を有することを特徴とするDVDに、データと、データに関する情報とを記録する方法。

【請求項32】 176.4KHzまたは192KHzのサンプリング周波数でオーディオデータを符号化し、DVDのオーディオディレクトリ中にデータとこのデータに関する情報を記録することを特徴とする、DVDオーディオとDVDビデオ上にオーディオデータとオーディオデータに関するオーディオ情報を記録する方法。

【請求項33】 DVDがDVDオーディオである場合には、176.4KHzまたは192KHzのサンプリング周波数でデータを符号化するとともに、そのデータに関する情報を符号化し、

DVDがDVDビデオである場合には、88.2KHzまたは96KHzのうちの一つのサンプリング周波数でデータを符号化し、

DVDがDVDオーディオである場合には、DVDのオーディオディレクトリ中にデータとそのデータに関する情報を記録し、

DVDが、DVDビデオである場合には、DVDのビデオディレクトリ中にデータとそのデータに関する情報とを記録することを特徴とする、DVDオーディオとDVDビデオ上にオーディオデータとオーディオデータに関する情報とを記録する方法。

【請求項34】 192KHzのサンプリング周波数でのデータとそのデータに関する情報とを符号化し、符号化されたデータを96KHzデータと192KHzデータとに分割し、

DVDのAUDIO-TSディレクトリ中にオーディオタイトルとして192KHzのデータを記録するととも

に、
VIDEO-TSディレクトリ中のビデオタイトルとして96KHzのデータを記録することを特徴とする、DVD上にデータとそのデータに関する情報とを記録する方法。

【請求項35】 前記の符号化は、線形PCM無損失符号化によってデータを符号化するものであることを特徴とする請求項34に記載の方法。

【請求項36】 オーディオタイトル(ATS)の情報を持ったオーディオ管理(AMG)を有するデータを符号化する符号化部と、

DVD上にデータを記録する光学ピックアップとを具備し、

前記各ATSは、DVDのオーディオタイトルセット(AUDIO-TS)中にオーディオタイトルセット情報と(ATS1)とこれに続く連続したオーディオオブジェクト(AOB)を有するとともに、

前記符号化部は、前記ATS1を使用して再生すべきオーディオデータのサンプリング周波数を表示しかつ区別し、

前記サンプリング周波数は、176.4KHzと192KHzとを有することを特徴とするDVD上にデータを記録する装置。

【請求項37】 前記サンプリング周波数は、48KHz・96KHz・44.1KHz・88.2KHzであることを特徴とする請求項36に記載の装置。

【請求項38】 前記ATS1は、オーディオ符号化モードが線形パルス符号変調(PCM)オーディオであることを示すとともに、第1～第3量子化ビット数はそれぞれ16ビット・20ビット・24ビットであることを示すことを特徴とする請求項37に記載の装置。

【請求項39】 前記ATS1は、オーディオ符号化モードが圧縮符号化システムであり、
圧縮前のオーディオデータの第1～第3量子化ビット数は、それぞれ16ビットと20ビットと24ビットであることを示すことを特徴とする請求項37に記載の装置。

【請求項40】 前記ATS1はフィールドの値を有し、

前記サンプリング周波数は、176.4KHzと192KHzのサンプリング周波数を含む第1～第6サンプリング周波数であり、

前記ATS1は、二つのフィールドの値の対応する状態によって第1～第6サンプリング周波数を示すことを特徴とする請求項36に記載の装置。

【請求項41】 前記二つのフィールドの値の一方は、サンプリング周波数が176.4KHzまたは192KHzであるかどうかを示すことを特徴とする請求項40に記載の装置。

【請求項42】 前記二つのフィールドの値の他方が一

つの状態を有し、その他方の値が、サンプリング周波数が176.4KHzまたは192KHzの一方であることを示す場合に、他方の値の状態が、サンプリング周波数が176.4KHzまたは192KHzであることを示すことを特徴とする請求項41に記載の装置。

【請求項43】 二つのフィールドの値の第1のものが、第1状態または第2状態を有し、

前記第1状態は、サンプリング周波数が44.1KHz・88.2KHz・176.4KHzのうちの一つであることを示し、

前記第2状態は、48KHz・96KHz・192KHzのうちの一つであることを示し、

二つのフィールドの値の第2のものが、サンプリング周波数が176.4KHzまたは192KHzであることを示す第1状態を有することを特徴とする請求項40に記載の装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はDVDディスクに記録あるいは貯蔵する装置及び方法に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、CD(Compact Disc)に記録されるオーディオデータは44.1KHzでサンプリングされ、各サンプルは16ビットに量子化された線形PCMオーディオデータ(Linear Pulse Code Modulation audio data)である。そして、再生器は前記CDに記録されたデジタルデータを読み出してアナログ信号に変換して再生する。前記のようなCDは以前のLPなどに比べて使用及び保管し易いという利点をもっているが、音質の面ではアナログLPより劣るという意見もあった。即ち、44.1KHzでサンプリングされ、及び16ビットに量子化されたオーディオデータを再生する場合、原音再生が難しく且つCD以前世代で用いられるディスクよりも音質が劣化する問題点があった。実際、人間の可聴可能な音域は20KHz以上になることができ、ダイナミックレンジ(dynamic range)も120dB以上になるべきである。そして、前記CDは最大2チャンネルのオーディオ信号のみを記録し得るために、現在段々関心が高まっているマルチチャンネル(multi channel)音楽に
40 関係したオーディオデータの記録及び再生が不可能であるという短所もあった。

【0003】従って、オーディオデータのサンプリング周波数を高くし記録チャンネル数を大きくして、再生される音質を向上させるための方法が提示されている。また、最近の一つのディスク再生装置が多様な種類のディスクを再生し得るように設計されている。前記のようなディスクにはDVD(Digital Versatile Disc)がある。前記DVDはビデオデータ及びオーディオデータを高密度で記録し、前記ビデオデータはMPEG(Moving Picture Expert Group)フォーマットで記録し、オーディオ

データは線形PCM(Linear Pulse Code Modulation)フォーマット、ドルビーAC-3フォーマット、MPEGフォーマットなどで記録する。そして、前記DVDビデオディスクを再生する装置はビデオデータを再生する構成及びオーディオデータを再生する構成を備え、前記DVDビデオディスクに記録されたビデオ及びオーディオデータをそれぞれ再生する。

【0004】この時、前記DVDビデオは映像データを含むことを仮定して規格を作ったので、オーディオ専用で用いる場合にはディスク空間の浪費が酷くなる。前記のようにDVDビデオディスクに記録されるオーディオデータがCDオーディオディスクに記録されるオーディオデータより一層優れた音質をもつ。即ち、前記DVDディスクに記録されるオーディオデータは前記CDオーディオディスクに記録されるオーディオデータよりサンプリング周波数が高く、量子化ビット数が多く、チャンネル数が多い。従って、前記DVD再生装置は高音質のオーディオデータをマルチチャンネルで再生することができる。

【0005】前記DVDディスクは最大10.08Mbpsのデータ伝送が可能である。これを基準として計算すると、192KHzのサンプリングされたデータも2チャンネル再生が可能であることが分かる。また、このような値は日本国で1996年4月に開催されたADA懇談会(Advanced Digital Audio Conference)で次世代オーディオに必要な要求事項として指定した最大サンプリング周波数に近接している。従って、前記DVDディスクに純粋オーディオデータを記録し、DVD再生装置が前記DVDオーディオディスクを再生すると、一層優れた音質のオーディオ信号を再生することができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的は、最大サンプリング周波数及び最大量子化ビット数を用いてサンプリングされたデジタルオーディオ信号をデータの伝送速度によって制限されるチャンネル数まで線形PCM方式で記録することのできるDVDオーディオディスクを提供することにある。本発明の他の目的は、最大サンプリング周波数及び最大量子化ビット数を用いてサンプリングされたデジタルオーディオ信号を設定方式で圧縮符号化し、データの伝送速度及び符号化方式によって制限されるチャンネル数まで記録することのできるDVDオーディオディスクを提供することにある。

【0007】本発明のまた他の方法は、線形PCM方式で記録されたDVDオーディオディスクを再生することのできる装置及び方法を提供することにある。本発明のまた他の目的は、圧縮符号化されたオーディオデータを貯蔵しているDVDオーディオディスクを再生することのできる装置及び方法を提供することにある。本発明のまた他の目的は、DVD再生装置がDVDビデオディスク及びDVDオーディオディスクを判別し、判別結果に

よってDVDビデオディスクまたはDVDオーディオディスクを再生することのできる装置及び方法を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明のDVDオーディオディスク装置は、ディスク情報領域にビデオ__TS及びオーディオ__TSのディレクトリが位置し、前記オーディオ__TSディレクトリにAMGの位置情報が記録され、前記AMGにディスクの各オーディオタイトルの位置情報が記録され、前記オーディオタイトルがATSI__MATと多数のAOBに連続連結されて構成され、前記ATSIのオーディオストリームアトリビュートにオーディオ符号化モード、第1～第3量子化ビット、第1～第3サンプリング周波数及びオーディオチャンネル数に關係する復号化アルゴリズム情報が記録され、前記AOBに、前記オーディオストリームアトリビュートに記録された復号化アルゴリズムに対応するオーディオデータが貯蔵されたオーディオバックから構成されたことを特徴とする。

【0009】上記目的を達成するための本発明の実施例によるDVDオーディオを再生する装置は、前記ディスクから再生されるオーディオデータを受信するデータ受信部と、前記受信されるオーディオ__TSの情報を検査して、有効データが存在すればDVDオーディオと感知し、前記受信されるオーディオデータの情報を分析してオーディオ符号化モード、サンプリング周波数、チャンネル数及び量子化情報などを含むオーディオ制御信号を発生し、前記オーディオ__TSに有効データが存在しなければ再生制御を中断する制御部と、多数の復号化部を備え、前記オーディオ制御信号によって対応する復号化部が選択されて受信されるオーディオデータを復号化し、前記オーディオ制御信号に基づいて前記復号化されたオーディオデータをマルチチャンネルミキシング、サンプリング周波数変換及び再量子化処理するオーディオデコーダと、前記復号化されたオーディオデータをアナログオーディオ信号に変換して出力するオーディオ出力部とから構成されたことを特徴とする。

【0010】上記目的を達成するための本発明によるDVDオーディオ再生方法は、ディスクのオーディオ__TSディレクトリに有効データが記録されている時にAMGの位置を把握し、前記AMGの情報からディスクの全体情報を確認し、タイトル再生要求時に前記AMGの位置情報に基づいて該当オーディオタイトルの位置を把握した後、該当オーディオタイトル位置のデータを読み取り、前記ATSI__MATを読み取り、前記ATSI__MATのオーディオストリームアトリビュートを読み取って該当オーディオタイトルを再生するための再生アルゴリズムを行えるようにオーディオデコーダをセットした後、該当オーディオタイトルを再生することとを特徴とする。

【0011】

【発明の実施の形態】最近次世代の記録媒体として脚光を浴びているDVDを用いて現在LDを凌駕する映像及び音響を記録して再生するDVDビデオを商品化しており、これを再生し得るDVD再生装置も出現している。本発明は前記DVDの高い記録容量を用いてCD及びDAT(Digital Audio Tape)などのデジタルオーディオ性能を凌駕する良質のオーディオデータを記録及び再生することのできるデジタルオーディオディスク(以下、DVDオーディオという)とDVDオーディオを再生し得る装置及び方法に関する。ここで、前記DVDオーディオはDVDビデオと類似する規格をもつ。従って、前記DVDオーディオは実際に再生されるオーディオデータを記録するデータ領域と前記データ領域に対する情報を記録する情報領域に区分される。また、前記DVD再生装置は挿入されるDVDオーディオのみを再生するDVDオーディオ再生装置と、DVDオーディオ及びDVDビデオを全て再生し得るDVD-A/V再生装置を具現することができる。

【0012】前記DVDオーディオ再生装置及びDVD-A/V再生装置は、挿入されるDVDがDVDオーディオかDVDビデオであるかを判断した後、該当方式で挿入されたDVDを再生することができた。本発明の実施例によるDVDオーディオは前記DVDビデオの構造を大部分使用し、オーディオデータの構造を変更して良質のオーディオデータを記録する。本発明の実施例ではDVDオーディオの構造、及びDVDオーディオに記録されたデータを再生する動作を察してみる。

【0013】前記DVDオーディオの情報領域に記録される基本ファイル構造は図1のような構造をもつ。前記図1はDVDオーディオ及びDVDビデオのディレクトリ構造(directory structure)を示している。前記図1を参照すると、DVDのディレクトリはビデオ_TS(VIDEO_TS)と、オーディオ_TS(AUDIO_TS)と、使用者領域(User defined)からなり、それぞれのディレクトリには割り当てられるファイル名のファイル(File of which file name shall be assigned)が連結される。前記ディレクトリ構造は各ファイルのディスク上における位置を示す。前記VIDEO_TSディレクトリに連結されたファイルは現在商品化されているDVDビデオ及び再生装置のためのファイル構造であり、AUDIO_TSディレクトリに連結されたファイルはDVDオーディオ及び再生装置のためのファイル構造である。

【0014】ここで、前記DVDビデオとDVDオーディオはそれぞれVIDEO_TSディレクトリ及びAUDIO_TSを全て含む。この時、前記DVDビデオはAUDIO_TSディレクトリが存在するが、AUDIO_TSディレクトリの内部には何も記録されていない空のディレクトリから構成されている。しかし、前記D

VDオーディオはAUDIO_TSディレクトリにディスクに記録されたタイトルの位置情報が記録されており、前記VIDEO_TSにもDVDビデオ再生装置で再生可能な情報(spec:例えば、サンプリング周波数など)のタイトルに対する位置情報が記録されている。従って、前記DVDディスクの判別はAUDIO_TSの内部に有効なデータの記録の有無を検査して判断することができる。即ち、ディスク判別時に前記AUDIO_TS内に有効なデータがなければDVDビデオになり、前記AUDIO_TS内に有効なデータがあればDVDオーディオになる。従って、DVD再生装置は、DVD挿入時にディレクトリの状態を確認し、挿入されたディスクがDVDオーディオかDVDビデオであるかを判断することができる。

【0015】前記図1ではDVDビデオのディレクトリ上に連結されるDVDビデオ論理データ構造(logical data structure of DVD-Video)の概念を示している。前記DVDビデオの論理データ構造はボリューム空間の構造(structure of volume Space)と、ビデオ管理構造(structure of Video Manager:以下、“VMG”という)と、ビデオタイトルセット構造(structure of Video Title Set:以下、“VTS”という)と、ビデオオブジェクトセット構造(structure of Video Object Set:以下、“VOBS”という)を有する。図2は前記DVDビデオの論理データ構造を示している。前記図2を参照すると、DVDディスクのボリューム空間はボリューム及びファイル構造、単一DVDビデオゾーン(DVD-Video zone)と、DVDその他のゾーン(DVD-others zone)などから構成される。そして、DVDビデオのデータ構造が割り当てられる前記DVDビデオゾーンは一つのVMGと少なくとも1個から最大99個までのVTSが割り当てられることができる。前記VMGはDVDビデオゾーンの前部に配置され、2個または3個のファイルから構成される。なお、VTSは少なくとも3個のファイルから最大12個以下のファイルから構成される。

【0016】図3はVMG(Video Manager)及びVTS(Video Title Set)の構造を示す図であり、全てのVOB(Video Object)が連続ブロック(contiguous blocks)に記録された形態の例を示している。前記VOBはビデオ、オーディオ、サブピクチャ(sub-picture)などのデータから構成される。前記図3を参照すると、前記VMGは制御データのVMGI(Video Manager Information)ファイルと、VOBのメニュー(VMGM_VOBS)ファイルと、VMGIバックアップファイルから構成される。そして、n個のVTSは制御データのVTSIと、VOBのメニュー(VTSM_VOBS)と、VOBのタイトル(VTSTT_VOBS)と、VTSIのバックアップファイルから構成される。尚、前記VTSTT_VOBSは多数のC_IDNから構成される。ここで、C_IDN#はVOB内のセルID番号を示

し、VOB_IDN#はVOB内のVOB ID番号を示す。

【0017】図4は前記図3でVMGIの構造を示す図であり、関連したVIDEO_TSディレクトリに対する情報を備える。前記図4に示すように前記VMGIはVMGI_MAT (Video Manager Information Management Table)を始めとして、TT_SRPT (Title Search Pointer Table)、VMGM_PGC I_UT (Video Manager Menu PGC I Unit Table)、PTL_MAI T (Parental Management Information Table)、VTS_ATTR T (Video Title Set Attribute Table)、TXTDT_MG (Text Data Manager)、VMGM_C_ADT (Video Manager MenuCell Address Table)、VMGM_VOBU_ADMAP (Video Manager MenuVideo Object Unit Address Map)などが後を追う。図5は前記VMGIのTT_SRPTの構造を示している。前記TT_SRPTはVIDEO_TSディレクトリ下のビデオタイトルの探索情報を備える。前記TT_SRPTはTT_SRPT情報のTT_SPT I (Title Search Pointer Table Information)を先頭にして、n個のタイトル探索ポインタTT_SRP # (Title Search Pointer for Title #)が番号順によって順次相次ぐ。ここで、前記TT_SRPT #は0～99のサイズをもつ。

【0018】図6は前記図3に示した各VTSの前に位置するビデオタイトルセット情報VTS I (Video Title Set Information)の構造を示している。前記図6を参照すると、前記VTS Iは一つまたはそれ以上のビデオタイトル及びビデオタイトルセットメニューVTS M (Video Title Set Menu)の情報を備える。前記VTS Iは各タイトルの管理情報を備える。ここで、タイトル管理情報はPTT (Part_of Title)を探索するための情報、VOBを再生するための情報、VTS M情報及びVOBのアトリビュートに対する情報を備えている。前記図6 *

*に示すように、前記VTS IはVTS I_MAT (Video Title Set Information Management Table)を始めとして、VTS_PTT_SRPT (Video Title Set Part_of Title Search Pointer Table)、VTS_PGC I T (Video Title Set Program Chain Information Table)、VTS M_PGC I_UT (Video Title Set Menu PGC I Unit Table)、VTS_TMAP T (Video Title Set Time Map Table)、VTS M_C_ADT (Video Title Set Cell Menu Address Table)、VTS M_VOBU_ADMAP (Video Title Set Menu Video Object Unit Address Map)、VTS_C_ADT (Video Title Set Cell Address Table)、VTS_VOBU_ADMAP (Video Title Set Video Object Unit Address Map)などが後を追う。

【0019】図7はDVDビデオのビデオタイトルセット情報管理テーブルVTS I_MAT (Video Title Set Information Management Table)の構造を示している。前記VTS I_MATはVTS Iの各情報とVTS内のVOBSのアトリビュートの開始アドレスを表示している。前記図7のような構造を有するVTS I_MATにおいて、RBP516～579のVTS_AST_ATR T (Audio Stream attribute table of VTS)は図8 (a)のように8個のオーディオストリームのVTS_AST_ATR #0～#7 RBPを貯蔵しており、各VTS_AST_ATRは図8 (b)のような構造をもつ8バイトから構成され、各フィールドの値はVTS M_VOBSのオーディオストリーム内部の情報になる。

【0020】次に、前記図8 (b)を参照してVTS_AST_ATRの構造を察してみる。第1、b63～b61に記録されるオーディオ符号化モード (audio coding mode)の情報は下記の表1の通りである。◎

【表1】

b 6 3 ～ b 6 1	audio coding mode
0 0 0 b	ドルビーAC-3
0 1 0 b	拡張ビットストリームの無い MPEG-1またはMPEG-2
0 1 1 b	拡張ビットストリームのあるMPEG-2
1 0 0 b	線形PCMオーディオ
1 1 0 b	DTS (option)
1 1 1 b	SDDS (option)
others	reserved

第2、b60のマルチチャンネル拡張 (multichannel extension)はマルチチャンネル拡張有無情報を貯蔵する領域であり、0 bが記録されると、マルチチャンネル拡張機能が

選択されていないことを意味し、1 bが記録されると、図7のVTS I_MATのRBP792～983に記録されたVTS_MU_AST_ATR Tの情報によって

マルチチャネル拡張機能が行われることを意味する。第 2、b 5 9～b 5 8のオーディオタイプ(audio type)は＊ 【表2】

b 5 9～b 5 8	audio type
0 0 b	Not specified
0 1 b	Language included
others	reserved

第4、b 5 7～b 5 6のオーディオ応用モード(audio application mode)は下記の表3の通りである。◎ ※

b 5 7～b 5 6	audio applicaion mode
0 0 b	Not specified
0 1 b	Karaoke mode
1 0 b	Surround mode
1 1 b	reserved

【0021】第5、b 5 5～b 5 4には量子化情報(Quantization/DRC)が下記のように貯蔵される。オーディオ符号化モードが“000b”であれば、11bが記録される。そして、前記オーディオ符号化モードが010bまたは011bであれば、前記量子化情報は次のように定義される。

00b：ダイナミックレンジ制御データがMPEGオーディオストリームに存在しない。

01b：ダイナミックレンジ制御データがMPEGオーディオストリームに存在する。

10b：reserved

11b：reserved

【0022】前記オーディオ符号化モードが100bであれば、量子化情報は下記の表4のように貯蔵される。

◎

【表4】

b 5 5～b 5 4	Quantization DRC
0 0 b	1 6 bits
0 1 b	2 0 bits
1 0 b	2 4 bits
1 1 b	reserved

第6、サンプリング周波数f_sを表すb 5 3～b 5 2は下記の表5の通りである。◎

【表5】

b 5 3～b 5 2	f s
0 0 b	4 8 K H z
0 1 b	9 6 K H z
1 0 b	reserved
1 1 b	reserved

第7、オーディオチャンネルの数を表すb 5 0～b 4 8は下記の表6のようである。◎

【表6】

b 5 0 ~ b 4 8	audio channel数
0 0 0 b	1 c h (mono)
0 0 1 b	2 c h (stereo)
0 1 0 b	3 c h (multichannel)
0 1 1 b	4 c h (multichannel)
1 0 0 b	5 c h (multichannel)
1 0 1 b	6 c h (multichannel)
1 1 0 b	7 c h (multichannel)
1 1 1 b	8 c h (multichannel)
others	reserved

【0023】また、前記図7のVTS I_MATにおいて、RBP 792~983のVTS_MU_AST_ATRT(Multichannel Audio stream attribute table of VTS)は図9のように8つのオーディオストリームのVTS_MU_AST_ATR#0~#7RBPを貯蔵している。そして、前記各VTS_MU_AST_ATRTは図10のような8バイトのVTS_MU_AST_ATR(1)と図9のような16バイトのVTS_MU_AST_ATR(2)からなる。

【0024】前述したようにDVDビデオの情報領域VIDEO_TSは図2~図11のように構成され、このような情報領域はDVDビデオのディスク情報領域に位*

* 置する。前記DVDビデオは前述したようにビデオデータ及びオーディオデータを記録するので、良質のオーディオデータを貯蔵することができない。従って、前記DVDに記録されるオーディオデータはDVDの最大ビット率の10.08Mbpsで記録することができない。即ち、前記DVDビデオで記録可能なオーディオデータの最大ビット率(maximum bit rate)は6.75Mbpsであり、最大サンプリング周波数は96KHzである。前記DVDビデオで線形PCMマルチチャンネルオーディオデータは下記の表7の通りである。◎

【表7】

f s	Q b	最大記録チャンネル数	最大ビット率
48KHz	16bit	8ch	6.144Mbps
48KHz	20bit	6ch	5.760Mbps
48KHz	24bit	5ch	5.760Mbps
96KHz	16bit	4ch	6.144Mbps
96KHz	20bit	3ch	5.760Mbps
96KHz	24bit	2ch	4.608Mbps

【0025】本発明の実施例ではビデオデータを記録せず純粹オーディオデータのみを記録するDVDオーディオを提供する。従って、DVDオーディオは前記DVDビデオとは異なり、DVDの最大ビット率の10.08Mbpsを超えない範囲で多チャンネルのオーディオデータを記録することができる。従って、前記DVDオーディオは最大192KHzサンプリング周波数を使用することができ、オーディオチャンネルの数も13チャンネルまで拡張することができる。前記DVDオーディオの情報領域に記録される基本ファイル構造も前記図1のような構造をもつ。前記図1のようなファイル構造においてA

UDIO_TSディレクトリに連結されたファイルはDVDオーディオ及び再生装置のためのファイル構造である。従って、前記したように前記DVDオーディオにはAUDIO_TSとVIDEO_TSが両方とも存在し、前記VIDEO_TSにはDVDビデオで再生可能なタイトルの位置情報及びVMGの位置情報が記録され、AUDIO_TSにはDVDオーディオで再生可能な位置情報及びAMGの位置情報が記録される。従って、DVD再生装置はDVD挿入時にディレクトリの状態を確認し、挿入されたディスクがDVDオーディオであるか否かを判断することができる。

【0026】図13は前記図1でDVDオーディオのディレクトリ上に連結されるDVDオーディオ論理データ構造(logical data structure of DVD-Audio)の概念を示している。前記DVDオーディオの論理データ構造はボリューム空間の構造(structure of volume Space)と、オーディオ管理構造(structure of Audio Manager: 以下、“AMG”という)、オーディオタイトルセット構造(structure of AudioTitle Set: 以下、“ATS”という)、オーディオオブジェクトセット構造(Structure of Audio Object Set: 以下、“AOBS”という)を有する。図13は前記DVDオーディオの論理データ構造を示している。前記図13を参照すると、DVDディスクのボリューム空間は、ボリューム及びファイル構造、単一DVDオーディオゾーン(DVD-Audio zone)、DVDその他のゾーン(DVD-others zone)などから構成される。そして、DVDオーディオのデータ構造が割り当てられる前記DVDオーディオゾーンは一つのAMGと少なくとも1個から最大99個までのATSが割り当てられることができる。前記AMGはDVDオーディオゾーンの前部に配置され、2個または3個のファイルから構成される。また、前記ATSは少なくとも3個のファイル〜最大12個以下のファイルから構成される。

【0027】前記AMG及びATSの構造は図14〜図20に示すようにDVDビデオのVMG及びVTSと同一か類似の構造をもつ。しかし、DVDビデオの線形PCM、及び疑似-無損失圧縮符号化データPLPCD(Pseudo-lossless Psychoacoustic coded data)のための構造は、DVDオーディオの新しいサンプリング周波数による線形PCM或いは無損失圧縮符号化データ(Lossless Coded data)或いは疑似-無損失圧縮符号化データを処理するのに不適である。従って、前記VMG及びVTSとはやや異なる構造をもつべきである。即ち、前記DVDオーディオで変形されるべき内容は前記VMG及びVTSでオーディオアトリビュートを指定する部分でサンプリング周波数及びチャンネル数を指定する部分を拡張してAMG及びATSとして使用すべきである。

【0028】従って、前記DVDオーディオは図13のようなボリューム構造をもつ。前記図13を参照すると、DVDディスクのボリューム空間はボリューム及びファイル構造、単一DVDオーディオゾーン(DVD-Video zone)と、DVDその他のゾーン(DVD-others zone)などから構成される。そして、DVDオーディオのデータ構造が割り当てられる前記DVDオーディオゾーンは1個のAMGと少なくとも1個から最大99個までのATSが割り当てられることができる。前記AMGはDVDオーディオゾーンの前部に配置され、2個または3個のファイルから構成される。また、前記ATSは少なくとも3個のファイル乃至最大12個以下のファイルから構成される。

【0029】図14はAMG(Audio Manager)及びAT

S(AudioTitle Set)の構造を示し、全てのAOB(Audio Object)が連続ブロックに記録された形態の例を示している。前記AOBはオーディオデータから構成される。図14を参照すると、前記AMGは制御データのAMGI(Audio Manager Information)ファイルと、AOBのメニュー(AMGM_AOBS)ファイルと、AMGIバックアップファイルから構成される。そして、n個のATSは制御データのATSIと、AOBのメニュー(ATSM_AOBS)と、AOBのタイトル(ATT_VOBS)と、ASTIのバックファイルから構成される。また、前記ATSTT_AOBSは多数のC_IDNから構成される。ここで、C_IDN#はAOB内のセルID番号を示し、AOB_IDN#はAOB内のAOB ID番号を示す。

【0030】図15は前記図14でAMGIの構造を示す図であり、関連したAUDIO_TSディレクトリに対する情報を備える。前記図15に示すように前記AMGIはAMGI_MAT(Audio Manager Information Management Table)を始めとして、TT_SRPT(Title Search Pointer Table)、AMGM_PGC_UT(Audio Manager Menu PGCI Unit Table)、PTL_MAT(Parental Management Information Table)、ATS_ATTRT(Audio Title Set Attribute Table)、TXTDT_MG(Text Data Manager)、AMGM_C_ADT(Audio Manager Menu Cell Address Table)、AMGM_AOBU_ADMAP(Audio Manager Menu Audio Object Unit Address Map)などが後を追う。

【0031】図16は前記AMGIのTT_SRPTの構造を示している。前記TT_SRPTはAUDIO_TSディレクトリ下のビデオタイトルの探索情報を備える。前記TT_SRPTはTT_SRPT情報のTT_SRTTI(Title Search Pointer Table Information)を先頭にして、n個のタイトル探索ポインタTT_SRP#(Title Search Pointer for Title #)が番号順によって順次相次ぐ。ここで、前記TT_SRP#は0〜99のサイズをもつ。

【0032】図17は前記図14に示した各ATSの前に位置するオーディオタイトルセット情報ATSI(Audio Title Set Information)の構造を示している。前記図17を参照すると、前記ATSIは一つまたはそれ以上のオーディオタイトル及びオーディオタイトルセットメニューATSM(Audio Title Set Menu)の情報を備える。前記ATSIは各タイトルの管理情報を備える。ここで、タイトル管理情報はPTT(Part_of_Title)を探索するための情報、AOBを再生するための情報、ATSM情報及びAOBのアトリビュートに対する情報を備えている。前記図17に示すように、前記ATSIはATSI_MAT(Audio Title Set Information Management Table)を始めとして、ATS_PTT_SRPT(Audio Title Set Part_of_Title Search Pointer Table)

e)、ATS_PGCIT(Audio Title Set Program Chain Information Table)、ATSM_PGCIT_UT(Audio Title Set Menu PGC Unit Table)、ATS_TMAPT(Audio Title Set Time Map Table)、ATSM_C_ADT(Audio Title Set Cell Address Table)、ATSM_AOBU_ADMAP(Audio Title Set Menu Audio Object Unit Address Map)、ATS_C_ADT(Audio Title Set Menu Cell Address Table)、ATS_AOBU_ADMAP(Audio Title Set Audio Object Unit Address Map)などが後を追う。

【0033】図18はDVDオーディオのオーディオタイトルセット情報管理テーブルATSI_MAT(Audio Title Set Information Management Table)の構造を示している。前記ATSI_MATはATSIの各情報とATS内のAOBSのアトリビュートの開始アドレスを表示している。前記DVDオーディオのATSI_MAT(Audio Title Set Information Management Table)は図18のような構造のATSI_MATでRBP260~267のATSM_AST_ATRと、RBP516~579のATS_AST_ATRTと、RBP792~1298のATS_MU_AST_ATR_EXTを備える。

【0034】ここで、前記ATSM_AST_ATRとATS_AST_ATRTのオーディオ符号化モード(Audio coding mode)にはDVDオーディオに記録され*

またオーディオデータの符号化情報を貯蔵する。本発明の実施例では線形PCM方式、無損失圧縮符号化方式と疑似無損失圧縮符号化方式(Pseudo-Lossless Psychoacoustic coding: 以下、無損失圧縮符号化方式と疑似無損失圧縮符号化方式を圧縮符号化方式と称する)のオーディオデータをDVDオーディオディスクに記録する例を察してみる。また、本発明の実施例では前記圧縮符号化モードはDTS符号化方式を使用すると仮定する。なぜなら、前記DTSは無損失圧縮符号化方式と疑似無損失圧縮符号化方式を全て支援し得るためである。この時、DTS符号化モードはオプションとして用いることができ、b63~b61が“110b”であれば、DTSオーディオ符号化モードになる。

【0035】第1、ATSM_AST_ATRの変更を察してみると、図19に示すようにb55~b48のデータパターン及び定義を変更する。即ち、ATSM_AST_ATRのb55~b48のうち、b53~b52のサンプリング周波数データを変更し、b51のreservedビットをオーディオチャンネルビット(Numver of Audio Channels)に吸収する。前記図19に示すようにATSM_AST_ATRで変更された定義を察してみると、オーディオサンプリング周波数fsは下記の表8のように変更する。◎

【表8】

b53~b52	b51	fs
00b	0	48KHz
01b	0	96KHz
10b	0	192KHz
11b	0	reserved
00b	0	44.1KHz
01b	1	88.2KHz
10b	1	176.2KHz
11b	1	reserved

また、オーディオチャンネル数は下記の表9のように変更 40 【表9】
する。◎

b 5 1 ~ b 4 8	Number of Audio Channels
0 0 0 0 b	1 c h (mono)
0 0 0 1 b	2 c h (stereo)
0 0 1 0 b	3 c h (multichannel)
0 0 1 1 b	4 c h (multichannel)
0 1 0 0 b	5 c h (multichannel)
0 1 0 1 b	6 c h (multichannel)
0 1 1 0 b	7 c h (multichannel)
0 1 1 1 b	8 c h (multichannel)
1 0 0 0 b	9 c h (multichannel)
1 0 0 1 b	1 0 c h (multichannel)
1 0 1 0 b	1 1 c h (multichannel)
1 0 1 1 b	1 2 c h (multichannel)
1 1 0 0 b	1 3 c h (multichannel)
1 1 0 1 b	1 4 c h (multichannel)
1 1 1 0 b	1 5 c h (multichannel)
1 1 1 1 b	1 6 c h (multichannel)

【0036】第2、ATS_AST_ATRTの変更を察してみると、前記図18のATSI_MATでRBP 516~579のATS_AST_ATRT(Audio Stream attribute table of ATS)は図20(a)のように8個のオーディオストリームのATS_AST_ATR#0~#7を貯蔵しており、各ATS_AST_ATRは図20(b)のような構造をもつ8バイトから構成され、各フィールドの値はATSM_AOBSのオーディオストリーム内部の情報になる。図20(b)に示すようにb55~b48のデータパターン及び定義を変更する。即ち、前記図8bに示すようにATS_AST_ATRTのb55~b48でb51のreservedビットをオーディオチャンネルビット(Number of Audio Channels)に吸収する。前記図20(b)で変更された定義を察してみると、オーディオサンプリング周波数fsは前記(表8)のように変更し、オーディオチャンネル数は前記表9のように変更する。

【0037】第3、ATS_MU_AST_ATRTでは、図22及び図23のような情報を前記図10及び図11に追加する。前記ATS_MU_AST_ATR(1)及びATS_MU_AST_ATR(2)は8チャンネルまでのオーディオデータ情報及びチャンネルのミキシング係数に対する情報を提供するために、8チャンネル以上の線形PCMオーディオに対しては情報を提供しない。従って、本発明の実施例では最大13チャンネルまで可能なので、9番目のチャンネルから13番目のチャンネルまでの情報をATS_MU_AST_ATR(1)及びATS_MU_AST_ATR(2)の後のreserved領

域に記録する。従って、図21に示すようにATS_MU_AST_ATRTを構成する。前記図21を参照すると、13個のオーディオチャンネルに対する情報及びミキシング係数情報を貯蔵するための39バイトの大きさをもつ13個のATS_MU_AST_ATR#1~#12を備える。

【0038】そして、前記それぞれのATS_MU_AST_ATRは図22のようなオーディオチャンネル情報及び図23のようなミキシング係数情報から構成される。ここで、前記図22は拡張された5つのオーディオチャンネル情報のATS_MU_AST_ATR_EXT(1)が示されており、8チャンネルのオーディオデータ情報を記録するためのATS_MU_AST_ATR(1)の構成が略されている。また、図23は拡張された5つのチャンネルのオーディオチャンネルのミキシング係数情報を記録するためのATS_MU_AST_ATR_EXTが示されており、8チャンネルのオーディオデータチャンネルに対するミキシング(mixing)係数が記録される。ATS_MU_AST_ATR(2)の構成が略されている。

【0039】前記のような構造をもつATSI_MATはDVDオーディオに記録されたオーディオデータの情報であり、各オーディオタイトルの最初部分に構成される。そして、前記ATSI_MATの次には実際オーディオデータのAOBSが連続して連結される。また、前記図7のようなVTSI_MATもDVDビデオに記録されたビデオデータ、サブピクチャデータ及びオーディオデータの情報であり、各ビデオタイトルの最初部分に

構成される。そして、前記VTS I_MATの次には実際データのVOBSが連続して連結される。前記AOBSは図24のような構造を有し、多数個のオーディオバックを備えてオーディオデータを記録する。そして、前記VOBSは図24と類似する構造を有し、多数個のビデオバック、サブピクチャバック、オーディオバックを備えてビデオデータ、サブピクチャデータ、オーディオデータを貯蔵する。前記AOBSのオーディオバックとVOBSのオーディオバックは同一構造を有する。

【0040】ここで、まずVOBSの構造を察してみ、次にAOBSの構造を察してみる。前記VOBSの構造を察してみると、一つのVOBSは多数個のビデオオブジェクトVOB_IDN1～VOB_IDNiから構成され、一つのビデオオブジェクトVOBは多数個のセルC_IDN1乃至C_IDNjから構成され、1つのセルは多数個のビデオオブジェクトユニットVOBU(Video Object Unit)から構成され、一つのVOBUはビデオバックから構成される。DVDビデオに記録されるビデオデータはバック(pack)単位で構成され、図25はDVDでパディングバック(padding packet)の無いバックの構成を示している。前記図25を参照すると、1つのバックは2048バイトサイズを有し、14バイトのバックヘッダ(pack header)と2034バイトのバック

ヘッダ(packets for video, audio, sub-picture, DSI or PCI)から構成される。そして、前記14バイトのバックヘッダは4バイトのバック開始コード(pack start code)、6バイトのSCRと、3バイトのプログラム-MUXレート(program-mux-rate)と、1バイトのスタッフィング長さ(stuffing_length)から構成される。

【0041】図26～図29はDVDビデオで用いられるオーディオバックの構造を示す図であり、図26は線

形PCMオーディオバックの構造を示している。前記図26を参照すると、14ビットのバックヘッダと2034バイトの線形オーディオバックから構成される。ここで、前記オーディオバックの構成を察してみると、1バイトのバックヘッダ(packet header)と、1バイトのサブストリームid(sub_stream_id)と、3バイトのオーディオフレーム情報(audio frame information)と、3バイトのオーディオフレーム情報(audio data information)と、1バイト以上2013バイト以下の大きさを有する線形PCMオーディオデータから構成される。

【0042】前記図27はドルビーAC-3オーディオバックの構造を示している。前記図27を参照すると、14ビットのバックヘッダと2034バイトのドルビーAC-3オーディオバックから構成される。ここで、前記オーディオバックの構成を察してみると、1バイトのバックヘッダ(packet header)と、1バイトのサブストリームid(sub-stream-id)と、3バイトのオーディオフレーム情報(audio frame information)と、1バイト以上2016バイト以下の大きさを有するAC-3オーディオデータから構成される。前記図28は拡張ビットストリーム(extension bitstream)をもたないMPEG-1オーディオまたはMPEG-2オーディオバックの構造を示しており、図29は拡張ストリームを有するMPEG-2オーディオバックの構造を示している。

【0043】前記図26～図29のような構造をそれぞれのオーディオバックは下記の表10のような構造を同一に備え、別途にそれぞれのフォーマットに対応する個別データ領域(private data area)を備える。◎

【表10】

Field	ビット数	バイト数	Value	Comment
packet_start_code_prefix	24	3	00 0001h	
stream_id	8	1	1011 1101b	Private-stream_1
PES_packet_length	16	2		
'10'	2	3	10b	
PES_scrambling_control	2		00b	not scrambled
PES_priority	1		0	not priority
data_alignment_indicator	1		0	not defined by d -iscriptor
copyright	1		0	not defined by d -iscriptor
original_or_copy	1		1 or 0	original:1, copy:0
PTS_UTS_flags	2		10 or 00b	
ESCR_flag	1		0	no ESCR field
ES_rate_flag	1		0	no ES rate field
DSM_trick_mode_flag	1		0	no trick mode fi -eld
additional_copy_info_fla s	1		0	no copy info fie -ld
PES_CRC_flag	1		0	no CRC field
PES_extension_flag	1		0 or 1	
PES_headerd_data_length	8		0 to 15	
'0010'	4	5		Note 1
PTS[32..30]	3			
marker_bit	1			
PTS[29..15]	15			
marker_bit	1			
PTS[14..0]	15	1		Note 2
marker_bit	1			
PES_private_data_flag	1		0	
pack_header_field_flag	1		0	
Program_packet_sequence_ counter_flag	1		0	
P_STD_buffer_flag	1		1	
reserved	3		111b	
PES_extension_flag_2	1	2	0	Note 2
'01'	2		01b	
P_STD_buffer_scale	1		1	
P_STD_buffer_size	13		58	
stuffing_byte	-	0-7		

前記表10でNote1とNote2は次のようである。

Note 1: "PTS[32..0]"はオーディオフレームの一番目のサンプルが含まれるオーディオパケットごとに入る。

Note 2: この値は各VOBの最初のオーディオパケットにのみ含まれる。そして、その後のオーディオパケッ

トには含まれない。

【0044】そして、前記図26のような構造をもつ線形PCMデータのオーディオパケットで前記表10のような共通データ以外の個別データ領域に記録されるデータは下記の表11のようである。◎

【表11】

31

32

Field	ビット数	バイト数	Value	Comment
sub_stream_id	8	1	10100***b	Note 1
number_of_frame_headers	8	3	Provider defined	Note 2
first_access_unit_pointer	16		Provider defined	Note 3
audio_emphasis_flag	1	3	Provider defined	Note 4
audio_mute_flag	1		Provider defined	Note 5
reserved	1		- 0	
audio_frame_number	5		Provider defined	Note 6
quantization_word_length	2		Provider defined	Note 7
audio_sampling_frequency	2		Provider defined	Note 8
reserved	1		0	
number_of_audio_channels	3		Provider defined	Note 9
dynamic_range_control	8		Provider defined	Note 10
Audio data area (Linear PCM)				

前記表11でNote1～Note10は下記のようなものである。

Note1：***は復号化オーディオデータストリーム番号(decoding audio data stream number)を表示する。

Note2：“number_of_frame_headers”は該当データバケット内に最初バイトが含まれているオーディオフレーム数を示す。

Note3：アクセスユニット(access unit)はオーディオフレームである。一番目のアクセスユニット(first_access_unit)は該当オーディオバケット内に最初のバイトが含まれているオーディオフレームの最初のものをいう。

【0045】Note4：“audio_emphasis_flag”はエンファシスの状態を示す。オーディオサンプリング周波数(audio_sampling_frequency)が96KHzの時、この領域には“エンファシスオフ(emphasis off)”が記録される。エンファシスは一番目のアクセスユニットのサンプルから適用される。

0b：エンファシスオフ(emphasis off)

1b：エンファシスオン(emphasis on)

Note5：“audio_mute_flag”はオーディオフレーム内の全てのデータがゼロであるミュート状態を示す。ミュートは一番目のアクセスユニットの初サンプルから適用される。

0b：ミュートオフ(mute off)

1b：ミュートオン(mute on)

Note6：“audio_frame_number”はオーディオバケットの一番目のアクセスユニットのオーディオフレームグループ(Group of audio frame: GOF)内における番号である。この番号は“0”から“19”までである。

【0046】Note7：“quantization_word_length”はオーディオサンプルの量子化に用いられたビット数を

20 言う。

00b：16ビット

01b：20ビット

10b：24ビット

11b：reserved

Note8：“audio_sampling_frequency”はオーディオサンプルのサンプリングに用いられたサンプリング周波数を示す。

00b：48KHz

01b：96KHz

30 others:reserved

【0047】Note9：“number_of_channels”はオーディオチャネルの数を表示する。

000b：1ch(mono)

001b：2ch(stereo)

010b：3ch(multichannel)

011b：4ch(multichannel)

100b：5ch(multichannel)

101b：6ch(multichannel)

110b：7ch(multichannel)

40 111b：8ch(multichannel)

【0048】Note10：“dynamic_range_control”は一番目のアクセスユニットからダイナミックレンジを圧縮するためのダイナミックレンジ制御ワードをいう。この時、前記図26～図29のようなオーディオバケットでストリームidは次のように決定される。第1、線形PCMオーディオバケットのストリームidは10111101b(private_stream_1)になり、サブストリームidは10100***bになる。第2、AC-3オーディオバケットのストリームidは10111101b(private_stream_1)になり、サブストリームid

は1000 0***bになる。第3、MPEGオーディオパケットのストリームidは1100 0***bまたは1101 0***bになり、サブストリームidはない。前記ストリームidまたはサブストリームidで“***”は0と7との間の値を有する復号化オーディオストリーム番号を表示し、前記復号化オーディオストリーム番号はオーディオ圧縮モードに関係なく同一番号に割り当てられない。

【0049】図30はオーディオバックとオーディオストリームの構造を説明するための図である。前記DVD*10

*オーディオに用いられるオーディオデータは線形PCMデータ、ドルビーAC-3データ、MPEGオーディオデータなどから構成されることができる。前記のようなオーディオストリームは前述したように多数のオーディオバックに分割される。そして、前記オーディオバックは前述したように2048バイト単位で調整される。

【0050】この時、前記線形PCMオーディオデータの符号化形態は下記の表12のようである。◎

【表12】

Sampling frequency(fs)	48 KHz	96 KHz
Sampling phase	Shall be simultaneous for all channels in a stream	
Quantization	16bits以上、2's complementary code	
Emphasis	適用(zero point:50μs, pole:15μs)	適用しない

前記表12で線形PCMオーディオストリームデータは隣接するGOF(Group of audio frames)から構成され、各GOFは最後のGOFを除き、20オーディオフレームから構成される。前記最後のGOFは20オーディオフレームと同じか小さく構成される。

【0051】図31はDVDビデオにおけるオーディオフレームの構造を示す図である。前記図31に示すように一つのオーディオフレームは1/600秒の設定された時間によるサンプルデータを備えている。前記サンプリング周波数fs=48KHzの時、一つのオーディオフレームは80オーディオサンプルデータを含み、サンプリング周波数fs=96KHzの時、一つのオーディオフレームは160オーディオサンプルデータを含む。一つのGOFは1/30秒に一致する。

【0052】図32～図34は線形PCMの線形データ

20 配列(sample data alignment for Linear PCM)を示している。サンプルデータは同一時点でサンプルされる各チャンネルデータから構成される。従って、サンプルデータの大きさはオーディオストリームアトリビュート(attribute)によって変化し、各サンプルデータは継続的に配列される。図32～図34は各モードにおける2つのサンプルデータの形態を示している。ここで、前記図32は16ビットモードのサンプルデータ配列を示しており、図33は20ビットモードのサンプルデータ配列を示しており、図34は24ビットモードのサンプルデータ配列を示している。

30 【0053】前記線形PCMオーディオのパケットデータ構造は下記の表13のようである。◎

【表13】

Stream mode			Data in a packet			
Number of channels	fs (KHz)	Quantization (bits)	Maximum number of samples in a packet	Data size (byte)	Packet stuffing of first/other PES packet (byte)	Padding packet first/other PES packet (byte)
1 (mono)	48/96	16	1004	2008	2/5	0/0
	48/96	20	804	2010	0/3	0/0
	48/96	24	670	2010	0/3	0/0
2 (stereo)	48/96	16	502	2008	2/5	0/0
	48/96	20	402	2010	0/3	0/0
	48/96	24	334	2004	6/0	0/9
3	48/96	16	334	2004	6/0	0/9
	48/96	20	268	2010	0/3	0/0
	48	24	222	1988	0/0	12/15
4	48/96	16	250	2000	0/0	10/13
	48	20	200	2000	0/0	10/13
	48	24	166	1992	0/0	18/21
5	48	16	200	2000	0/0	10/13
	48	20	160	2000	0/0	10/13
	48	24	134	2010	0/3	0/0
6	48	16	166	1992	0/0	18/21
	48	20	134	2010	0/3	0/0
7	48	16	142	1988	0/0	22/25
8	48	16	124	1984	0/0	26/29

この時、サンプルの数が前記表13に示した値より小さければ、パディングパケットの長さはバックサイズを調整するために増加する。サンプルはパケットバウンダリ (boundary) に割り当てられる。即ち、前記線形PCMオーディオに対する全てのオーディオパケットのサンプルデータは常時前記表13に示すように $S_{1,n}$ の一番目のバイトと共に始まる。前記線形PCMのチャンネル割当を察してみると、ステレオモードでACH0及びIACH1チャンネルはそれぞれLチャンネル及びRチャンネルに対応する。マルチチャンネルモードは前記ステレオモードとの互換性を持てるように符号化する。

【0054】第2、前記DVDオーディオのAOBSの構造を察してみると、前記AOBSの構造は前記19のように構成される。前記DVDオーディオはオーディオデータのみを記録するので、ビデオバックV_PCK及びサブピクチャバックSP_PCKが無い或いはあっても極めて少ない量のみが存在する。前記AOBSは前記VOBSと同様にオーディオバックの集合から構成され、前記オーディオバックの一般的な構造は前記図25と同一であり、オーディオバックの構造も前記図26～図29と同一である。本発明の実施例によるDVDオーディオはMPEG及びAC-3を使用しないと仮定する。本発明の実施例によるDVDオーディオは線形PCM方式と圧縮符号化方式のオーディオデータを記録すると仮定する。

【0055】まず、線形PCM方式のオーディオデータ

パケットを察してみる。前記表10及び表11はDVDビデオの線形PCMオーディオパケットを表示している。しかし、DVDオーディオの線形PCMパケットは前記のようなDVDビデオの線形PCMパケットを変更すべきである。前記DVDオーディオの線形PCM方式を察してみると、サンプリング周波数は48KHz、96KHz、192KHz、44.1KHz、88.2KHz、176.4KHzになり、量子化ビット数は16ビット、20ビット、24ビットになり、記録チャンネル数は1チャンネルでビット率が許容する最大限までである。前記記録チャンネル数の決定は下記の式(1)によって行われる。

$$N = Mbr / (Fs \times Qb) \quad \dots\dots\dots (1)$$

Fs : サンプリング周波数 (Hz) \Rightarrow 48KHz、96KHz、192KHz、44.1KHz、88.2KHz、176.4KHz

Qb : 量子化ビット数 (bits) \Rightarrow 16ビット、20ビット、24ビット

Mbr : DVDディスクの最大データ伝送率 (Mbps) \Rightarrow 10.08Mbps
 N : DVDディスクのデータ伝送率、サンプリング周波数、量子化ビット数によって定められる収録可能な最大チャンネル数

【0056】前記数式1によって決定されるチャンネル数は下記の表14の通りである。◎

【表14】

サンプリング周波数	量子化ビット数	最大チャネル数
48KHz/44.1KHz	16ビット	8チャネル
48KHz/44.1KHz	20ビット	8チャネル
48KHz/44.1KHz	24ビット	8チャネル
96KHz/88.2KHz	16ビット	6チャネル
96KHz/88.2KHz	20ビット	5チャネル
96KHz/88.2KHz	24ビット	4チャネル
192KHz/176.4KHz	16ビット	3チャネル
192KHz/176.4KHz	20ビット	2チャネル
192KHz/176.4KHz	24ビット	2チャネル

前記DVDオーディオの線形PCMオーディオバック構造は図35のように構成される。前記図35のような線形PCMオーディオバックの構造は前記図26に示すようなDVDビデオの線形PCMオーディオバック構造と同一の形態を有する。即ち、前記DVDオーディオの線形PCM方式で、一つのオーディオバックは14バイトのバックヘッダと最大2021バイトの線形PCMパケットから構成される。前記図35でバックヘッダ(pack header)はMPEG2システムレーヤの規定に従う。
【0057】前記線形PCMオーディオパケットの構造

も前記MPEG2システムレーヤの規定を基本とする。前記線形PCMのオーディオパケットは下記の表15及び表16のような構造をもつ。ここで、前記表15は前記DVDビデオの線形PCMオーディオパケット構造の表10と同一の形態を有し、個別データ構造を表示する表16は前記DVDビデオの線形PCMオーディオパケット構造で個別データ構造を表示する前記表11と異なる構造をもつ。◎
【表15】

20

Field	ビット数	バイト数	Value	Comment
packet_start_code_prefix	24	3	00 0001h	
stream_id	8	1	1011 1101b	Private_stream_1
PES_packet_length	16	2		
'10'	2	3	10b	
PES_scrambling_control	2		00b	not scrambled
PES_priority	1		0	not priority
data_alignment_indicator	1		0	not defined by d -iscriptor
copyright	1		0	not defined by d -iscriptor
original_or_copy	1		1 or 0	original:1, copy:0
PTS_DTS_flags	2		10 or 00b	
ESCR_flag	1		0	no ESCR field
ES_rate_flag	1		0	no ES rate field
DSM_trick_mode_flag	1		0	no trick mode fi -eld
additional_copy_info_fla s	1		0	no copy info fie -ld
PES_CRC_flag	1		0	no CRC field
PES_extension_flag	1		0 or 1	
PES_header_data_length	8		0 to 15	
'0010'	4	5	provider defined	
PTS(32..30)	3			
marker_bit	1			
PTS(29..15)	15			
marker_bit	1			
TS(14..0)	15	1		
marker_bit	1			
PES_private_data_flag	1		0	
pack_header_field_flag	1		0	
Program_packet_sequence_ counter_flag	1		0	
P_STD_buffer_flag	1		1	
reserved	3		111b	
PES_extension_flag_2	1	2	0	
'01'	2		01b	
P_STD_buffer_scale	1		1	
P_STD_buffer_size	13		58	
stuffing_byte	-	0-7		

【表16】

Field	ビット数	バイト数	Value	Comment
sub_stream_id	8	1	10100***b	Note 1
number_of_frame_headers	8	3	Provider defined	Note 2
first_access_unit_pointer	16		Provider defined	Note 3
audio_emphasis_flag	1	3	Provider defined	Note 4
audio_mute_flag	1		Provider defined	Note 5
reserved	1		0	
audio_frame_number	5		Provider defined	Note 6
quantization_word_length	2	3	Provider defined	Note 7
audio_sampling_frequency	3		Provider defined	Note 8
number_of_audio_channels	3		Provider defined	Note 9
dynamic_range_control	8		Provider defined	Note 10
Audio data area(Linear PCM)				

前記表16でNote1～Note10は下記のようなものである。

Note1：***は復号化オーディオデータストリーム番号(decoding audio data stream number)を表示する。

Note2：“number_of_frame_headers”は該当データパケット内に最初バイトが含まれているオーディオフレーム数を示す。

【0058】Note3：アクセスユニット(access unit)はオーディオフレームである。一番目のアクセスユニット(first_access_unit)は該当オーディオパケット内に最初のバイトが含まれているオーディオフレームの最初のものをいう。

Note4：“audio_emphasis_flag”はエンファシスの状態を示す。オーディオサンプリング周波数(audio_sampling_frequency)が96KHz、192KHzの場合には“エンファシスオフ(emphasis off)”と表示されるべきである。エンファシスは一番目のアクセスユニットのサンプルから適用される。

0b：エンファシスオフ(emphasis off)

1b：エンファシスオン(emphasis on)

Note5：“audio_mute_flag”はオーディオフレーム内の全てのデータがゼロであるミュート(mute)状態を示す。ミュートは一番目のアクセスユニットの初サンプルから適用される。

0b：ミュートオフ(mute off)

1b：ミュートオン(mute on)

【0059】Note6：“audio frame number”はオーディオパケットの一番目のアクセスユニットのオーディオフレームグループ(Group of audio frame: GOF)内における番号である。この番号は“0”から“19”まで

である。

Note7：“quantization_word_length”はオーディオサンプルの量子化に用いられたビット数を言う。

00b：16ビット

01b：20ビット

10b：24ビット

11b：reserved

Note8：“audio_sampling_frequency”はオーディオサンプルのサンプリングに用いられたサンプリング周波数を示す。

000b：48KHz

001b：96KHz

010b：192KHz

011b：reserved

100b：44.1KHz

101b：88.2KHz

110b：176.4KHz

111b：reserved

40 【0060】Note9：“number_of_channels”はオーディオチャンネルの数を表示する。

0000b：1ch(mono)

0001b：2ch(stereo)

0010b：3ch(multichannel)

0011b：4ch(multichannel)

0100b：5ch(multichannel)

0101b：6ch(multichannel)

0110b：7ch(multichannel)

0111b：8ch(multichannel)

50 1000b：9ch(multichannel)

1001b:10ch(multichannel)

1010b:11ch(multichannel)

1011b:12ch(multichannel)

1100b:13ch(multichannel)

Notel0: "dynamic range control" は一番目のアク
セスユニットからダイナミックレンジを圧縮するための
ダイナミックレンジ制御ワードをいう。

*

*このような構造を有するDVD-オーディオの線形PCM
オーディオパケットの構造と該当フレームの長さを4
8KHz/96KHz/192KHzと仮定する場合の
例は下記の表17の通りである。

【0061】◎

【表17】

Stream mode			Data in a packet			
Number of channels	fs (KHz)	Quantization number of samples in a packet (bits)	Maximum number of samples in a packet	Data size (byte)	Packet stuffing of first/other PES packet (byte)	Padding packet first/other PES packet (byte)
1 (mono)	48/96/192	16	1004	2008	2/5	0/0
	48/96/192	20	804	2010	0/3	0/0
	48/96/192	24	670	2010	0/3	0/0
2 (stereo)	48/96/192	16	802	2008	3/5	0/0
	48/96/192	20	402	2010	0/5	0/0
	48/96/192	24	334	2004	6/0	0/9
3	48/96/192	16	334	2004	6/0	0/9
	48/96	20	268	2010	6/3	0/0
	48/96	24	222	1988	0/0	12/15
4	48/96	16	250	2000	0/0	10/13
	48/96	20	200	2000	0/0	10/13
	48/96	24	166	1992	0/0	18/21
5	48/96	16	200	2000	0/0	10/13
	48/96	20	160	2000	0/0	10/13
	48	24	134	2010	0/3	0/0
6	48/96	16	166	1992	0/0	18/21
	48	20	134	2010	0/3	0/0
	40	24	110	1980	0/0	30/33
7	48	16	142	1988	0/0	22/25
	48	20	114	1995	0/0	15/18
	48	24	94	1974	0/0	36/39
8	48	16	124	1984	0/0	26/29
	48	20	100	2000	0/0	10/13
	48	24	82	1968	0/0	42/45
9	48	16	110	1980	0/0	30/33
	48	20	88	2000	0/0	30/33
10	48	16	100	2000	0/0	10/13
	48	20	80	1980	0/0	10/13
11	48	16	90	1968	0/0	30/33
12	48	16	82	1968	0/0	42/45
13	48	16	76	1976	0/0	34/37

この時、サンプルの数が前記表17のサンプル数より小さければ、パディングパケットの長さをのばせてバックの長さを合わせる。そして、前記サンプルはパケットバウンダリ(packet boundary)に合わせられる。即ち、全てのオーディオパケットの開始はS2nの初バイトから始まる。これは前記1パケット内のオーディオサンプルの数は常時偶数になる。前述したようにDVDオーディオフォーマットで線形PCMデータはフレーム及びその

フレームの集合であるGOF(Group of Audio Frames)の単位で処理される。前記DVDオーディオでは前述したように192KHzのサンプリング周波数を使用することができるが、このような場合、下記の表18のような線形PCM符号化基本ルールを設定することができる。◎

【表18】

Sampling frequency	48KHz, 44.1KHz	96KHz, 88.2KHz	192KHz, 176.4KHz
Sampling phase	Shall be simultaneously for all channels in all streams		
Quantization	16bits or more, 2's complementary code		
Emphasis	適用 (zero point : 50 μ s, pole : 15 μ s)	cannot be applied	

【0062】そして、サンプリング周波数が192KHzの場合、一つのオーディオフレームは320個のオーディオサンプルデータをもち、一つのGOFはDVDビデオのように1/30秒の時間に該当する。前記96KHzのサンプリング周波数を用いてマルチチャネルを具現することができて良質のオーディオデータを貯蔵することができる。

【0063】第2、前記DVDオーディオで圧縮符号化方式を使用する場合を察してみる。前記線形PCM方式のオーディオデータを記録する場合、前述したように48KHzサンプリング周波数と16ビットの量子化器を使用する場合には13チャンネルの収録が可能であって現在マルチチャネル音楽で要求するチャンネル数の10チャンネルまでのオーディオデータ記録が可能である。しかし、192KHzサンプリング周波数及び24ビット量子化器を使用する場合、最大2チャンネルのオーディオデータを記録し、マルチチャネルオーディオに対する要求を充足させることができなくなる。従って、高いサンプリング周波数で多くのビットを用いてサンプリングする場合にはマルチチャネルオーディオ機能を具現し難い。これを具現するために圧縮符号化(Lossless codingまたはPseudo-Lossless Psychoacoustic coding)を使用すれ *

$$N = (Mbr \times Ccr) / (Fs \times Qb) \quad \dots\dots (2)$$

Fs : サンプリング周波数 (Hz) \Rightarrow 48KHz、44.1KHz、96KHz、88.2KHz、192KHz、176.4KHz

Qb : 量子化ビット数 (bits) \Rightarrow 16ビット、20ビット、24ビット

Mbr : DVDディスクの最大データ伝送率 (Mbps) \Rightarrow 10.08Mbps

Ccr : Pseudo-Lossless Psychoacoustic Codingの圧縮比

N : DVDディスクのデータ伝送率、サンプリング周波

* ばよい。無損失圧縮符号化(Lossless coding)の圧縮率は大部分2:1程度であり、疑似無損失圧縮符号化の圧縮率は4:1程度である。

【0064】本発明の実施例によるDVDオーディオで使用する圧縮符号化(Pseudo-Lossless Psychoacoustic Coding)技法は4:1程度の常用圧縮率をもつDTS(Digital Theater System)符号化方法を使用すると仮定する。そして、前記DTSは無損失圧縮符号化も可能である。前記DTS符号化方法は別の音質の劣化無しで十分な数のチャンネルをこめることができる。例えば、DTSの場合は現在発表された他の圧縮符号化アルゴリズムとは異なり、192KHzと24ビットの高いSPECに対しても符号化が可能であり、ビット率の減縮よりは音質の劣化を最小化する方向に開発されたアルゴリズムである。そして、サンプリング周波数は48KHz、44.1KHz、96KHz、88.2KHz、192KHz、176.4KHzになり、量子化ビット数は16ビット、20ビット、24ビットになり、記録チャンネル数は1チャンネル復号化方式とビット率が許容する最大限までである。前記記録チャンネル数の決定は下記の(2)式によって行われる。

数、量子化ビット数によって定められる収録可能な最大チャンネル数。

【0065】ここで、前記圧縮符号化技法は圧縮率4:1のDTS符号化方法を使用すると仮定し、この場合、前記数式2によって決定されるチャンネル数は下記の表19の通りである。したがって、前記(2)式によれば、各サンプリング周波数に対して8チャンネル以上を支援することができる。◎

【表19】

サンプリング周波数	量子化ビット数	最大チャンネル数
48KHz／44.1KHz	16ビット	52チャンネル
48KHz／44.1KHz	20ビット	42チャンネル
48KHz／44.1KHz	24ビット	35チャンネル
96KHz／88.2KHz	16ビット	26チャンネル
96KHz／88.2KHz	20ビット	21チャンネル
96KHz／88.2KHz	24ビット	17チャンネル
192KHz／176.4KHz	16ビット	13チャンネル
192KHz／176.4KHz	20ビット	10チャンネル
192KHz／176.4KHz	24ビット	8チャンネル

前述したように本発明の実施例によるDVDオーディオ構造はMPEG2システムレーヤの構造を基本としているので、圧縮符号化されたオーディオバック構造は図36のように構成される。従って、前記圧縮符号化されたオーディオバックは14バイトのバックヘッダと最大2021バイトの圧縮符号化されたオーディオパケットから構成される。前記図36でバックヘッダはMPEG2システムレーヤの規定に従う。

【0066】前記圧縮符号化されたオーディオパケットの構造も前記MPEG2システムレーヤの規定を基本とする。前記圧縮符号化されたオーディオパケットは下記の表20及び表21のような構造をもつ。ここで、前記表20は前記DVDビデオの線形PCMオーディオパケット構造の表10と同一の形態をもつ。◎

【表20】

Field	ビット数	バイト数	Value	Comment
packet_start_code_prefix	24	3	00 0001h	
stream_id	8	1	1011 1101b	private_stream_1
PES_packet_length	16	2		
'10'	2	3	10b	
PES_scrambling_control	2		00b	not scrambled
PES_priority	1		0	not priority
data_alignment_indicator	1		0	not defined by d -iscriptor
copyright	1		0	not defined by d -iscriptor
original_or_copy	1		1 or 0	original:1, copy:0
PTS_DTS_flags	2		10 or 00b	
ESCR_flag	1		0	no ESCR field
ES_rate_flag	1		0	no ES rate field
DSM_trick_mode_flag	1		0	no trick mode fi -eld
additional_copy_info_fla s	1		0	no copy info fie -ld
PES_CRC_flag	1		0	no CRC field
PES_extension_flag	1		0 or 1	
PES_header_data_length	8		0 to 15	
'0010'	4	6	provider defined	
PTS[32..30]	3			
marker_bit	1			
PTS[29..16]	16			
marker_bit	1			
PTS[14..0]	15			
marker_bit	1	1		
PES_private_data_flag	1			
pack_header_field_flag	1			
Program_packet_sequence counter_flag	1			
P_STD_buffer_flag	1			
reserved	3			
PES_extension_flag_2	1			
'01'	2	2	01b	
P_STD_buffer_scale	1			
P_STD_buffer_size	13			
stuffing_byte	-	0-7		

◎

* * 【表21】

Field	ビット数	バイト数	Value	Comment
sub_stream_id	8	1	&&&& &***b	Note 1
number_of_frame_headers	8	1	Provider defined	Note 2
first_access_unit_pointer	16	2	Provider defined	Note 3

前記表21のNote1～Note3は下記のような。

Note1: "sub_stream_id" は圧縮符号化技法によって異なり、圧縮符号化技法がDTSであれば、"10001***b"になる。前記サブストリームidで***は復号化オーディオストリーム番号である。

Note2: "number_of_frame_headers" は該当データパケット内に最初のバイトが含まれているオーディオフレーム数を示す。

【0067】Note3: アクセスユニット(access unit)はオーディオフレームであるが、first_access_unitは

該当するオーディオパケット内に最初のバイトが含まれているオーディオフレームの最初のものをいう。

前述したように圧縮符号化技法のDVDオーディオディスクは下記のような仕様を有する。第1、圧縮符号化可能なチャンネル数は8チャンネル以上であり、第2、サンプリング周波数は48KHz、44.1KHz、96KHz、88.2KHz、192KHz、176.4KHzの使用が可能であり、第3、量子化ビット数は16ビット、20ビット、24ビットが可能であり、第4、圧縮比は1:1から5:1以上まで可能であり、第5、ダウンミキシング(down mixing)、ダイナミックレンジ制御(dynamic range control)、タイムスタンプ(time stamp)などの機能があり、第6、音質の優秀性の公認を実際に受けるものにする。

【0068】前述したように本発明の実施例でDVDオーディオの圧縮符号化方式は4:1程度の常用圧縮比を有するDTSを使用した例を仮定している。前記DTS圧縮アルゴリズムは圧縮比が低くて音楽用として使用し得るほど音質が良く、DVDビデオではオプションとして採用可能になっている。前記DVDビデオはDTSバックの構造、パケット構造、及びDTSオーディオに対する制限アイテム(restricted item)がある。前記制限アイテムを察してみると、DTSの場合には圧縮後のピッ

※ト率が1.5Mbpsまでであり、圧縮可能データのサンプリング周波数も48KHzしか使用し得ない。本発明の実施例によるDVDオーディオでは前記DTSアルゴリズムを使用する場合、サンプリング周波数は192KHz、量子化ビット数は24ビット、マルチチャンネルデータは約4:1程度の水準で圧縮して良好に再生できるように拡張する。即ち、本発明の実施例によるDVDオーディオで用いる圧縮符号化方式はサンプリング周波数48KHz/44.1KHz/96KHz/88.2KHz/192KHz/176.4KHzを使用することができ、量子化ビット数は16ビット/20ビット/24ビットのマルチチャンネル線形PCMデータを音質の劣化無しで約4:1程度に圧縮することができる。

【0069】前記DVDオーディオはDVDビデオを再生する装置との互換性のために、前記DVDビデオの情報領域に該当するVIDEO_TSとVMGを別途に備えることができる。しかし、前記DVDビデオは1つのオーディオストリームの伝送率が前記したように6.144Mbpsを超過し得ないように規定している。即ち、DVDビデオは下記の表22のように伝送率の制限(restrictions on transfer rate)を規定している。◎
【表22】

	transfer rate	one stream	note
	total streams		
VOB	10.08Mbps	-	
Video stream	9.80Mbps	9.80Mbps	number of streams=1
Audio streams	9.80Mbps	6.144Mbps	number of streams=82(max)
Sub-picture streams	9.80Mbps	3.36Mbps	number of streams=32(max)

従って、前記DVDビデオを再生する装置は、DVDオーディオの全てのデータを再生するのではなく、DVDビデオの規定に合うデータのみ再生することができる。前記のようにDVDビデオ再生装置で線形PCMデータを再生する場合には、前記〈表7〉のようであり、圧縮※

※符号化されたDTSデータを再生する場合にもDVDビデオで規定されたDTSストリームのみを再生することができる。例えば、ディスクに貯蔵されるタイトルが下記の表23の通りであると仮定する。◎

【表23】

サンプリング周波数	量子化ビット数	チャンネル数	備考
48KHz	16ビット	8ch	タイトル1
96KHz	16ビット	4ch	タイトル2
96KHz	24ビット	2ch	タイトル3
96KHz	24ビット	4ch	タイトル4
192KHz	24ビット	2ch	タイトル5

【0070】そうすると、前記DVDオーディオのVIDEO_TSとVMGにはタイトル1～タイトル3の性質に対する情報及び位置情報が記録され、タイトル4～タイトル5に対する情報は記録されない。しかし、DVDオーディオのAUDIO_TSとAMGにはタイトル

1～タイトル5に対する情報を全て記録することができる。なぜなら、前記タイトル1～タイトル3はDVDビデオの規定にも含まれるが、タイトル4～タイトル5はDVDビデオの規定には含まれず、DVDオーディオの規定にのみ含まれるためである。従って、前記タイトル

4及びタイトル5はDVDオーディオを再生する装置でのみ可能である。このような場合、前記データ領域に余裕があれば、前記タイトル4及びタイトル5が前記DVDビデオを再生する装置で再生され得るようにサンプリング周波数、量子化ビット数及びチャンネル数を低めてタイトル4'及びタイトル5'を別途に記録し、VIDEO_TS及びVMGにもタイトル4'及びタイトル5'に対する情報を記録して再生することもできる。

【0071】尚、圧縮符号化方式のDTSがDVDビデオ規格を外れる場合（例えば、伝送率、チャンネル数、原データのサンプリング周波数、量子化ビット数など）にもAUDIO_TSとAMGにのみその情報を記録し、VIDEO_TSまたはVMGには情報を記録しない。但し、DVDビデオ規格内のDTSストリームのみVIDEO_TSとVMGに記録することができる。前記DVDビデオ規定を外れるDTSストリームをDVDビデオ再生装置で再生するためには該当オーディオストリームをDVDビデオの規定に合う伝送率、チャンネル数、サンプリング周波数、量子化ビット数に合わせて再び符号化して別途に貯蔵した後、このタイトルの情報をVIDEO_TSとVMGに記録すべきである。

【0072】前記DVDオーディオのAMG及びATSI_MATは前述したようにDVDビデオのVMG及びVTSI_MATのような構造を有し、前記DVDオーディオが前記DVDビデオ規定を超過する192KHz、及び8チャンネル以上のチャンネル数のオーディオデータを処理するためには、前記したようにやや修正して使用する場合には下記のような方式でディスクを作る。第1、ディスクに入れられるタイトルの内容が全てDVD規格を超えない場合、VMGまたはAMGのいずれかのみを置き、VIDEO_TSとAUDIO_TSで全てこの一つのファイルをVMGまたはAMGと指す。このような場合、同一構造なので、DVDオーディオ再生装置はこのファイルをAMGと見なして再生し、DVDオーディオ再生装置ではVMGと見なして再生する。

【0073】第2、ディスクに入れられるタイトルのうち一つでもDVDビデオの規定を超過するオーディオストリームがある場合、VMGまたはAMGを別に備え、前記VMGでは前記DVDビデオの規定を外れるタイトルに対する情報を記録しない。前記AMGでも該当タイトルをDVDビデオ再生装置が再生し得るようにサンプリング周波数、量子化ビット数、チャンネル数などを変更したタイトルに対する情報を貯蔵しなくてもよい。しかし、DVDオーディオのAMGやATSI_MATがDVDビデオのVMGやVTSI_MATとは全く異なる構造をもつ場合、2つの場合ともVMGまたはAMGを別途に備え、前記VTSI_MATとATSI_MATも別途にする。勿論、VMGまたはVTSI_MATにはDVDビデオの規定に合うオーディオタイトルの情報のみが記録される。

【0074】次に、前記のようなDVDオーディオを再生する装置の構成を察してみる。前記DVDオーディオディスク再生装置は独立的に構成されることができ、また、DVDビデオ再生装置に本発明の実施例によるDVDオーディオ再生装置を付加して使用することができる。本発明の実施例ではまずDVDオーディオ再生装置を説明し、次にDVDビデオ再生装置にDVDオーディオを再生する装置を付加した再生装置を説明する。

【0075】まず、DVDオーディオ再生装置の構成が図37に示されている。システム制御部111はDVDオーディオディスク再生装置の全般的な動作を制御し、ユーザインタフェース(user interface)機能を行う。前記システム制御部111はディスクのディスク情報領域に位置したVIDEO_TSディレクトリ及びAUDIO_TSディレクトリを読み取り有効データの可否を確認してDVDビデオまたはDVDオーディオを判断する。この時、前記AUDIO_TSディレクトリに有効データが存在すると、前記システム制御部111は挿入されたディスクがDVDオーディオであることを判断し、DVDオーディオの再生動作を制御する。しかし、前記AUDIO_TSに有効データが存在しなければ、前記システム制御部111は挿入されたディスクがDVDビデオであることを判断し、再生動作を中断させる。

【0076】ピックアップ部(pick-up unit)112はDVDオーディオディスクに記録されたデータを判読する機能を行う。サーボ制御部(servo controller)113は前記システム制御部111の制御の下で前記ピックアップ部112の駆動を制御して各種のサーボ機能を行う。データ受信部114は前記ピックアップ部112から出力されるオーディオデータの誤りを分析及び訂正する機能を行う。前記データ受信部114はECC(Error Correction Circuit)を含む。オーディオデコーダ(audio decoder)115は前記データ受信部114から出力されるオーディオ情報を前記システム制御部111に伝達し、前記システム制御部111の制御の下に受信されるオーディオデータを復号化して出力する。前記オーディオデコーダ115は本発明の実施例によるオーディオデータを復号化するために線形PCMオーディオデータと圧縮符号化されたオーディオデータをそれぞれ復号化する構成を備え、その構成は図38の通りである。

【0077】前記図38を参照すると、入力バッファ(input data buffer)211は前記データ受信部114から出力されるオーディオデータを入力として貯蔵する。ストリームセクタ(stream selector)212は前記システム制御部111の制御の下に前記入力バッファ211から出力されるオーディオデータストリームを選択的に出力する。線形PCM復号化部(linear PCM Decoding circuit)213は前記ストリームセクタ212から出力される線形PCMオーディオデータを入力として元のオーディオデータに復号化して出力する。符号化デー

タ復号化部214(Pseudo-Lossless Psychoacoustic Decoding circuit)は前記ストリームセクタ212から出力される圧縮符号化されたデータを入力として元のオーディオデータに復号化して出力する。出力バッファ(output data buffer)215は前記復号化部213及び214から出力されるオーディオデータを貯蔵した後出力する。デジタルオーディオフォーマッタ(digital audio formatter)216は前記復号化部213及び214から出力されるオーディオデータを前記システム制御部111で指定したフォーマットに変更して出力する。タイミ

ング制御部210は前記システム制御部111の制御の下に前記オーディオデコーダ115の各構成に対する動作を制御するためのタイミング制御信号を発生する。
 【0078】デジタル処理部(High-bit High-sampling Digital Filter)116は前記オーディオデコーダ115から出力されるオーディオデータを入力とし、システム制御部111の制御信号によって入力されたオーディオデータをデジタルフィルタリングして出力する。オーディオ出力部(High Performance Digital to Analog Converters and Analog Audio Circuitry)117は前記デジタル処理部116から出力されるオーディオデータをアナログ信号に変換及び処理して出力する機能を行う。

【0079】前記図37及び図38を参照すると、前記データ受信部114は前記ピックアップ部112を通してDVDオーディオディスクから再生されたオーディオデータをオーディオデコーダ115に伝達する。そうすると、前記再生されるオーディオデータはオーディオデコーダ115の入力バッファ211に順次貯蔵される。そして、前記ストリームセクタ212は前記システム制御部111の制御の下に前記入力バッファ211に貯蔵されたデータを該当の復号化部213または214に選択的に出力する。即ち、前記システム制御部111で線形PCMのオーディオデータ復号化を要求すると、前記ストリームセクタ212は前記入力バッファ211に貯蔵されたオーディオデータを前記線形PCM復号化部213に伝達する。また、前記システム制御部111で圧縮符号化されたデータの復号化を要求すると、前記ストリームセクタ212は前記入力バッファ211に貯蔵されたオーディオデータを前記符号化データ復号化部214に伝達する。

【0080】まず、線形PCMオーディオデータの復号化動作を察してみると、前記線形PCM復号化部213はマルチチャネルダウンミキシング(multichannel down mixing)、サンプリング周波数変換(sampling frequency conversion)、入力信号の再量子化(requantization of the input signal)する機能を行う。例えば、前記システムセクタ212から出力されるデータが8チャンネルのデータであり、出力時2チャンネルのデータに変換して

出力が要求された場合、前記線形PCM復号化部213はマルチチャネルダウンミキシングを行って所望するチャネル数の出力を作る。2番目に入力されるデータが192KHzでサンプリングされた状態であり、前記システム制御部111で96KHzのサンプリングデータ出力を要求すると、前記線形PCM復号化部213はサンプリング周波数変換を行って要求されたサンプリング周波数を有するオーディオデータに変換出力する。3番目に入力されるオーディオデータが24ビット量子化データであり、前記システム制御部111で16ビットの量子化データ出力を要求すると、前記線形PCM復号化部213は再量子化処理(requantization process)を行って所望するビット数の出力オーディオデータを発生する。

【0081】次に、圧縮符号化されたオーディオデータの復号化動作を察してみると、前記符号化データ復号化部214は前記システム制御部111の制御の下に該当のアルゴリズムを用いて圧縮符号化されたオーディオデータを復号化して出力する。この時、前記符号化データ復号化部214から出力されるオーディオデータの形態は前記システム制御部111で指定する形態になる。本発明の実施例によれば、前記符号化データ復号化部214はDTS復号化部になることができる。また、前記符号化データ復号化部214は指定されたアルゴリズムの復号化だけでなく、前記したようなマルチチャネルダウンミキシング、サンプリング周波数変換及び入力信号の再量子化機能を行う。

【0082】前記復号化部213及び214から出力される復号化されたオーディオデータは出力バッファ215とデジタルオーディオフォーマッタ216に伝達される。そうすると、前記出力バッファ215は入力される復号化オーディオデータを貯蔵した後、前記タイミング制御部210から出力される制御信号に同期させて外部へ出力する。そして、前記デジタルオーディオフォーマッタ216は復号化されたオーディオデータをデジタル機器間の伝送フォーマットに合わせてフォーマットした後、前記タイミング制御部210から出力される制御信号に同期させて外部へ伝送する。この時、前記外部へ伝送されるオーディオデータは同じ伝送フォーマットを有するオーディオ/ビデオ機器またはコンピュータへ出力されることができる。

【0083】前記したようにオーディオデコーダ115から出力される復号化されたオーディオデータはデジタル処理部116でデジタルフィルタ処理されて出力され、オーディオ出力部117は前記デジタル処理部116から出力されるオーディオデータをアナログ信号に変換して出力する。ここで、前記デジタル処理部116はデジタルフィルタから構成され、オーディオ信号帯域以外の雑音成分を除去する機能を行う。この時、前記192KHzでサンプリングされ、24ビットに量

子化されたオーディオデータを処理するために、前記デジタル処理部116は現在DVDまたはCDで使用するデジタルフィルタより一層高い解像度及びタップ数を有するフィルタ係数を必要とする。勿論、前記96KHz、192KHzのD/A変換器が一般化されると、前記デジタル処理部116はD/A変換器の内部に含まれることができるようになる。前記オーディオ出力部117はD/A変換器から構成され、前記デジタル処理部116で雑音の除去されたオーディオデータをアナログオーディオ信号に変換して出力する。

【0084】次に、DVDビデオディスク及びDVDオーディオディスクを並行して再生し得る再生装置の構成が図39に示されている。システム制御部311はDVDビデオディスク及びDVDオーディオディスクを再生する装置の全般的な動作を制御し、ユーザインタフェース機能(user interface)を行う。前記システム制御部111はディスクのディスク情報領域に位置したVIDEO_TSディレクトリ及びAUDIO_TSディレクトリを読み取り有効データの可否を確認してDVDビデオまたはDVDオーディオを判断する。この時、前記AUDIO_TSディレクトリに有効データが存在すると、前記システム制御部111は挿入されたディスクがDVDオーディオであることを判断し、DVDオーディオの再生動作を制御する。しかし、前記AUDIO_TSに有効データが存在しなければ、前記システム制御部111は挿入されたディスクがDVDビデオであることを判断し、DVDビデオ再生動作を制御する。

【0085】ピックアップ部312はDVDディスクに記録されたデータを判読する機能を行う。サーボ制御部(servo controller)313は前記システム制御部311の制御の下で前記ピックアップ部312の駆動を制御して各種のサーボ機能を行う。データ受信部314は前記ピックアップ部312から出力されるオーディオデータの誤りを訂正及び分析する機能を行う。前記データ受信部314はECC(Error Correction Circuit)を含む。オーディオ/ビデオデコーダ(audio/video decoder)315は前記データ受信部314から出力される情報を前記システム制御部311に伝達し、前記システム制御部311の制御の下に受信されるオーディオ/ビデオデータを復号化して出力する。

【0086】前記オーディオ/ビデオデコーダ315はビデオデータ及びオーディオデータを復号化する構成を備え、その構成は図40のようである。前記図40を参照すると、入力バッファ(input data buffer)411は前記データ受信部314から出力されるオーディオ及びビデオデータを入力として貯蔵する。ストリームパーザ(stream parser)412は前記システム制御部311の制御の下に前記入力バッファ411から出力されるオーディオ及びビデオデータストリームを選択的に出力する。オーディオ復号化部413は前記ストリームパーザ

412から選択出力されるオーディオデータを入力とし、前記システム制御部311から出力される制御データによって設定された方式でオーディオデータを復号化し出力する。復号化オーディオ出力部414は前記オーディオ復号化部413から出力される復号化されたオーディオデータを出力する機能を行う。ビデオ復号化部415は前記ストリームパーザ412から選択出力されるビデオデータを入力とし、前記システム制御部311から出力される制御データによって該当方式でビデオデータを復号化し出力する。復号化ビデオ出力部416は前記ビデオ復号化部415から出力される復号化されたビデオデータを出力する機能を行う。タイミング制御部410は前記システム制御部311の制御の下に前記オーディオ/ビデオデコーダ315の各構成に対する動作を制御するためのタイミング制御信号を発生する。

【0087】前記図40でオーディオ復号化部413は線形PCM方式、MPEG方式、AC-3方式及び圧縮符号化方式などにそれぞれ対応する復号化装置を備えなければならない。ここで、前記線形PCM方式及び圧縮符号化方式は本発明の実施例によるディスク装置に記録されたオーディオデータを再生するための構成をさらに備えるべきである。即ち、本発明の実施例によるサンプリング周波数、量子化ビット、オーディオチャネル数によるオーディオデータを再生し得る復号化部を備え、これら各復号化部に該当するオーディオデータを分配するためのストリーム選択器を備える。

【0088】デジタル処理部(High-bit High-sampling Digital Filter)316は前記オーディオ/ビデオデコーダ315から出力されるオーディオデータを入力とし、システム制御部311の制御信号によって入力されたオーディオデータをデジタルフィルタリングして出力する。オーディオ出力部(High Performance Digital to Analog Converters and Analog Audio Circuitry)317は前記デジタル処理部316から出力されるオーディオデータをアナログ信号に変換及び処理して出力する機能を行う。ビデオ出力部(NTSC Encoder Video Digital to Analog Converter's Analog Video Circuitry)318は前記オーディオ/ビデオデコーダ315から出力されるビデオデータをNTSC符号化した後アナログビデオ信号に変換して出力する。

【0089】前記図39及び図40を参照すると、前記ピックアップ部312から出力されるディスクの再生データはデータ受信部314から伝達され、前記データ受信部314は受信されたデータを誤り訂正及び分析してオーディオ/ビデオデコーダ315に伝達する。前記データ受信部314から出力されるデータはオーディオ/ビデオデコーダ315の入力バッファ411に印加されて貯蔵される。そうすると、システムパーザ412は前記システム制御部311の制御データによって必要なストリームを選択し、入力されるデータを分析してビデオ

データをビデオ復号化部415に伝達し、オーディオデータをオーディオ復号化部413に伝達する。

【0090】前記オーディオ復号化部413は前記ストリームバーザ412から出力されるオーディオデータを前記システム制御部311の要求に応じて変形して出力する。前記オーディオ復号化部413はDVDビデオディスクのオーディオ復号化機能とDVDオーディオディスクのオーディオ復号化機能を含めるべきである。前記ビデオ復号化部415は入力されたビデオデータをシステム制御部311の要求に応じて復号化した後変形して出力する。前記ビデオ復号化部415のビデオデータ変形はサブタイトルプロセス(sub-title process)やパンスキャン(pan-scan)などのビデオ信号処理をいう。

【0091】前記オーディオ復号化部413及びビデオ復号化部415から出力される復号化されたオーディオデータ及びビデオデータはそれぞれ復号化オーディオ出力部414及び復号化ビデオ出力部416に出力される。そうすると、前記出力部414及び416は入力される復号化されたデータを貯蔵した後、タイミング制御部410から出力されるタイミング制御信号に同期させて外部へ出力する。この時、前記復号化オーディオ出力部414はデジタル機器間の伝送フォーマットに合わせてフォーマットされたデジタルオーディオデータをタイミングに合わせて外部へ伝送する機能を行う。前記復号化オーディオ出力部414から出力されるオーディオデータは他のオーディオ/ビデオ機器またはコンピュ

オーディオデコーダ=Linear PCM Decoder (2) + Pseudo-Lossless Psychoacoustic Decoder + AC-3 Decoder + MPEG Decoder …… (7)

【0094】前記DVDビデオ及びDVDオーディオを同時に再生する再生装置は、挿入されたDVDのVIDEO_TS及びAUDIO_TSを検索してオーディオ復号化モードを設定する。ここで、前記DVDビデオに記録されるオーディオデータを察してみる。第1、DV※

※ータに伝達される。

【0092】ここで、前記図39のような構成を有する再生装置のオーディオ/ビデオデコーダ315はビデオ信号を処理する時、DVDビデオの規格を従い、オーディオ信号を処理する時に本発明の実施例によるアルゴリズムとDVDビデオの規格によるオーディオ復号化アルゴリズムを全て処理する。従って、前記オーディオ復号化部413はDVDビデオにおけるオーディオ規格のうち線形PCM及びDTSアルゴリズムを含んでいるために、DVDビデオディスクが挿入された場合にも再生が可能であり、本発明の実施例によるDVDオーディオディスクが挿入された場合にも再生が可能でなければならない。

【0093】この時、前記DVDビデオのオーディオ復号化に必要なアルゴリズムは線形PCM復号化(1) + AC-3復号化 + MPEG復号化であり、本発明の実施例によるDVDオーディオのオーディオ復号化に必要なアルゴリズムは線形PCM復号化(2) + 符号化データ復号化(Pseudo-Lossless Psychoacoustic Decoding)である。従って、DVDビデオディスクにおける線形PCMアルゴリズムは本発明の実施例による線形PCMアルゴリズムに含まれる。従って、DVDビデオ及びDVDオーディオを再生する装置に用いられる復号化アルゴリズムは下記の(7)式のような機能を含めるべきであり、これはオーディオ復号化413で行われる。

※Dオーディオでビデオデータを排除し、オーディオデータのみを記録した場合は下記の表24のような結果を得る。◎

【表24】

サンプリング 周波数	量子化ビット数	チャンネル当たり ビット率	チャンネル数	必要なデータ容量
48 KHz	16ビット	768 Kbps	8チャンネル	5.99 Gbyte
	20ビット	960 Kbps	8チャンネル	5.76 Gbyte
	24ビット	1.152 Kbps	8チャンネル	5.53 Gbyte
96 KHz	16ビット	1.536 Mbps	6チャンネル	5.53 Gbyte
	20ビット	1.920 Mbps	5チャンネル	5.76 Gbyte
	24ビット	2.304 Mbps	4チャンネル	5.53 Gbyte

【0095】第2、DVDビデオで規定された圧縮符号化方式を使用する場合、最大448 Kbpsまで圧縮することができる。圧縮可能なサンプリング周波数は48 KHzであり、圧縮可能な量子化ビット数は16ビットである。従って、限定された種類のデータのみ扱うことができ、圧縮比が10:1程度なので、オーディオ専用

で使用するには音質に問題が多い。圧縮アルゴリズムがドルビーAC-3アルゴリズムの場合、量子化方式は16ビット線形PCMであり、サンプリング周波数は48 KHzであり、収録可能な最大チャンネル数は5.1チャンネルであり、可能なビット率は192 Kbps～448 Kbpsである。前記ドルビーAC-3アルゴリズムは

符号化可能な量子化ビット数、サンプリング周波数が制限され、圧縮比が高くて音質の劣化が酷くためにオーディオ専用で使用するには不適である。また、前記圧縮アルゴリズムがMPEG2アルゴリズムの場合、量子化方式は16ビット～24ビット線形PCMであり、サンプリング周波数は48KHzであり、収録可能な最大チャンネル数は7.1チャンネルであり、可能ビット率は64Kbps～912Kbpsである。前記MPEG2アルゴリズムは符号化可能な量子化ビット数及び収録可能なチ

*チャンネル数が高いが、サンプリング周波数が制限されており、圧縮比が高くて劣化問題がある。

【0096】しかし、DVDオーディオの場合、伝送率を10.08Mbps、再生時間を80分と仮定すると、線形PCMオーディオは下記の表25のように具現することができる。さらに、前記サンプリング周波数が44.1KHz、88.2KHz、176.4KHzの場合でも、下記の表25と類似した値を有する。◎
【表25】

サンプリング 周波数	量子化ビット数	チャンネル当たり ビット率	チャンネル数	必要なデータ 容量
48KHz	16ビット	768Kbps	13チャンネル	5.99Gbyte
	20ビット	960Kbps	10チャンネル	5.76Gbyte
	24ビット	1.152Kbps	8チャンネル	5.53Gbyte
96KHz	16ビット	1.536Mbps	6チャンネル	5.53Gbyte
	20ビット	1.920Mbps	5チャンネル	5.76Gbyte
	24ビット	2.304Mbps	4チャンネル	5.53Gbyte
192KHz	16ビット	3.072Mbps	3チャンネル	5.53Gbyte
	20ビット	3.840Mbps	2チャンネル	4.61Gbyte
	24ビット	4.608Mbps	2チャンネル	5.53Gbyte

そして、圧縮符号化方式でDTSを使用する場合、量子化方式は16ビット、20ビット、24ビットの線形PCMを使用し、サンプリング周波数は48KHz、44.1KHz、96KHz、88.2KHz、192KHz、176.4KHzを使用し、収録可能な最大チャンネル数は13チャンネルであり、圧縮比は4：1程度である。前記DTS圧縮符号化方式は符号化可能な量子化ビット数及びサンプリング周波数が大きく、圧縮比が低くて高音質を保持することができる。

【0097】前記図37及び図39のような再生装置は、挿入されたディスクのAUDIO_TSディレクトリの内容を読み取り有効データの有無を検査してDVDディスクの種類を判断する。この時、前記図37のようなDVDオーディオ再生装置は前記AUDIO_TSディレクトリに有効なデータが存在すると、挿入されたディスクがDVDオーディオであることを感知し、DVDオーディオ再生機能を行い、前記AUDIO_TSディレクトリに有効なデータが存在しなければ、挿入されたディスクがDVDビデオであることを感知し、再生動作を中断する。また、前記図39のようなDVDビデオ及びDVDオーディオを再生する装置は、前記AUDIO_TSディレクトリに有効なデータが存在すると、挿入されたディスクがDVDオーディオであることを感知し、DVDオーディオ再生機能を行い、前記AUDIO_TSディレクトリに有効なデータが存在しなければ、挿入されたディスクがDVDビデオであることを感知

し、DVDビデオ再生機能を行う。

【0098】本発明の実施例では前記再生装置が図39のような構造をもつDVDオーディオ及びDVDビデオを再生し得る装置であると仮定して説明する。まずDVDが挿入されると、前記システム制御部311は511段階でこれを感じし、513段階でディスクの内周領域に位置するディスク情報領域に割り当てられた図2のような構成をもつDVDディレクトリのうち、AUDIO_TSディレクトリの内容を読み取る。以後、前記システム制御部311は515段階で前記AUDIO_TSに有効なデータが記録されているか否かを検査する。ここで、前記挿入されたDVDがDVDビデオの場合にはAUDIO_TSディレクトリは存在するが、実際該当ディレクトリ内にはデータが記録されていない。即ち、DVDビデオはAUDIO_TSディレクトリが空いている。しかし、前記挿入されたDVDがDVDオーディオであれば、前記AUDIO_TSディレクトリ内には前記図13～図23のようなオーディオデータの位置情報が記録されている。

【0099】従って、前記システム制御部311は前記515段階でAUDIO_TSディレクトリに有効なデータが記録されていれば、517段階で挿入されたディスクがDVDオーディオであることを感知する。以後、前記システム制御部311は519段階で前記AUDIO_TSディレクトリを読み取って図13及び図14のような構造をもつAMGの位置を把握し、512段階で

前記ピックアップ部312を制御してピックアップを該当AMGの記録された位置に移動させた後、前記AMGを読み取ってDVDオーディオに記録された全体オーディオデータの位置情報を確認する。前記図13及び図14に示すように、前記AMGにはDVDオーディオに記録された全体オーディオタイトルに関する情報が記録されており、且つ各タイトルの性格及び位置情報も含まれている。

【0100】以後、前記システム制御部311は523段階で特定オーディオタイトルの再生要求があるか否かを検査する。前記タイトルの再生要求は使用者またはDVDオーディオに記録された命令によって発生する。前記523段階でタイトルの再生要求が感知されると、前記システム制御部311は525段階で前記AMGから確認した後、位置情報に基づいて該当タイトルの存在するディスク位置を把握し、527段階で前記ピックアップ部312を制御してピックアップを該当タイトルのATSI_MAT位置まで移動させた後、該当タイトル位置のATSI_MATを読み取る。以後、前記システム制御部311は529段階で前記図18～図23のような構造をもつATSI_MATの情報を分析して再生すべきオーディオタイトルの種類及び性質を確認して再生アルゴリズムを把握し、531段階で確認された再生アルゴリズムによってDVDオーディオに記録されたオーディオデータを再生し得るように前記オーディオ/ビデオコーデック315のオーディオ復号化部413をセットする。この時、前記オーディオ復号化部413をセットする情報はオーディオ符号化モード、サンプリング周波数、量子化ビット数及びチャンネル数などになる。

【0101】以後、533段階で前記システム制御部311はオーディオ復号化部413で復号化される該当オーディオタイトルを再生する。しかし、前記515段階で前記AUDIO_TSディレクトリ内に有効なデータが存在しなければ、前記システム制御部311は535段階で挿入されたディスクをDVDビデオと判断し、537段階でVIDEO_TSディレクトリでVMGの位置を把握し、539段階で前記ピックアップ部312を該当位置に移動させてVMGの情報を読み取ってDVDビデオの全体情報を確認する。以後、前記システム制御部311はタイトル再生要求時、514段階を行って該当タイトルのVTSI_MATの情報に基づいて該当するタイトルのビデオ、サブピクチャ及びオーディオデータを再生する。

【0102】しかし、前記DVDオーディオを再生する装置の場合、挿入されたディスクがDVDオーディオの場合には前記511段階～533段階を同一に行うが、DVDビデオの場合には515段階でこれを感じ再生動作を中断する。前述したようにATSI_MAT情報に基づいてオーディオ復号化部413をセットした後、前記システム制御部111は前記533段階で図42の

ような過程でDVDオーディオのデータ領域(data area)に貯蔵されたオーディオバックを分析してオーディオデータを再生する。

【0103】まず、前記システム制御部311は611段階でセットされた前記オーディオ復号化部413を制御して復号化動作開始を命令し、613段階で前記ストリームバーザ412を制御して、受信されるオーディオデータを該当のオーディオアルゴリズムを備えたオーディオ復号化部413に伝達する。そうすると、該当のオーディオ復号化部413は前記したようにシステム制御部311でセットしたアルゴリズムによって受信されるオーディオデータを復号化して出力する。この時、前記システム制御部111は615段階でオーディオ復号化部413の動作状態を検査する。この時、復号化異常発生時に621段階に進んで動作中のオーディオ復号化部413を制御して復号化動作を中断させ、前記ストリームバーザ412を制御してデータの伝送を中断させ、該当異常状態による治療アルゴリズムを駆動した後前記611段階に戻る。

【0104】しかし、前記615段階で動作中のオーディオ復号化部413が正常動作を行う場合、617段階で復号化されたオーディオデータを復号化オーディオ出力部414を通して外部へ出力した後、619段階でオーディオ復号化部413の動作状態を検査する。この時、復号化異常状態が発生すると、前記612段階に進み、正常的な動作を行う場合には次のオーディオデータを復号化し得るようにリターンする。前記のようにオーディオ復号化部413でオーディオストリームの復号化が終了すると、前記システム制御部111は前記ディジタル処理部316及びオーディオ出力部317を制御しながら、復号化されたオーディオデータをアナログオーディオ信号に変換して出力する。

【0105】

【発明の効果】上述したように、本発明の実施例によるDVDはディスクにVIDEO_TSとAUDIO_TSディレクトリを備え、これらディレクトリ上の有効データ存在有無によってDVDオーディオ及びDVDビデオを判断することができる。そして、前記DVDオーディオは最大192KHzのサンプリング周波数及び24ビットの量子化されたオーディオデータを記録することができ、且つオーディオチャンネル数も大きく拡張することができる。従って、前記DVDオーディオに記録されたオーディオデータを充実に再生すると、良好なオーディオ信号を再生することができ、マルチチャンネル音楽にも対応することができる。そして、使用するディスクのデータ伝送速度、信号のサンプリング周波数、そしてサンプルの量子化ビット数によって制限される記録可能チャンネル数は符号化アルゴリズムなどを用いて高いサンプリング周波数及び多くの量子化ビットから作られるオーディオ信号で記録することができてマルチチャンネルから

聞き取ることができる。

【0106】前記192KHzのサンプリング周波数でサンプリングされた線形PCMデータを96KHzの線形PCMデータとその上位データに分けて96KHzのデータはそのまま記録し、その上位の192KHzのデータは無損失符号化技法を用いて記録する場合、本発明によるDVDは、AUDIO_TSにはそのオーディオタイトルをサンプリング周波数192KHz、線形PCM無損失符号化方式で記録し、VIDEO_TSにはそのビデオタイトルをサンプリング周波数96KHz、線形PCM方式で記録する。この際、前記DVDオーディオ再生装置はAUDIO_TSを読み取り、そのデータを無損失復号化方式を用いて復号化した後、96KHzのデータとミキシングして192KHzのデータとして再生する。かつ、DVDビデオ再生装置はVIDEO_TSを読み取り、96KHzのデータを再生する。すなわち、一つのタイトルを作成して、本発明のAUDIO_TSとVIDEO_TSにそれぞれ記録することにより、DVDオーディオ再生装置は192KHzでデータを再生することができ、DVDビデオ再生装置は96KHzでデータを再生することができる。

【0107】さらに、従来のCDのための44.1KHzでサンプリングされた音楽データをDVDに提供する場合、従来のDVDビデオフォーマットを用いて44.1KHzの音楽データを48KHzの音楽データに変換して提供しなければならない。しかしながら、この変換過程では音質の劣化が発生する。本発明によるDVDはDVDオーディオフォーマットでは44.1KHzでサンプリングされたオーディオ周波数を支援する。これにより、サンプリング周波数の変換無しにそのままオーディオデータを記録して映像データとともに提供するので、より良好な音質を提供することができる。

【0108】一般的なDVDビデオ再生装置は前記のようなDVDオーディオディスクのSPECに及ばないSPECを有するので、自身の性能に合わせて192KHz、24ビットのデータを再生し得るDVDオーディオ再生装置を前記DVDビデオ再生装置に並列配置して使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 DVDのディレクトリ構造を示す図。

【図2】 DVDの論理データ構造を示す図。

【図3】 DVDのビデオ管理構造(VMG)及ビデオタイトルセット(VTS)構造を示す図。

【図4】 DVDのビデオ管理情報(VMG)構造を示す図。

【図5】 DVDのタイトル探索ポインタテーブル(TT_SRPT)の構造を示す図。

【図6】 DVDのビデオタイトルセット情報(VTSI)の構造を示す図。

【図7】 DVDでビデオタイトルセット情報管理テ

ブル(VTSI_MAT)の構成を示す図。

【図8】 図8(a)はDVDでビデオタイトルセットのオーディオストリームアトリビュートテーブル(VTS_AST_ATTR)の構成を示す図、図8(b)はビデオタイトルセットのオーディオストリームアトリビュート(VTS_AST_ATR)の内部構成を示す図。

【図9】 図9はビデオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュートテーブル(VTS_MU_AST_ATTR)の構成を示す図。

【図10】 図10はビデオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュート(1)(VTS_MU_AST_ATTR(1))の構成を示す図。

【図11】 図11はビデオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュート(2)(VTS_MU_AST_ATTR(2))の構成を示す図。

【図12】 図12はビデオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュート(2)(VTS_MU_AST_ATTR(2))の構成を示す図。

【図13】 DVDオーディオの論理データ構造を示す図。

【図14】 DVDオーディオのオーディオ管理構造(AMG)及びオーディオタイトルセット(ATS)構造を示す図。

【図15】 DVDオーディオのオーディオ管理情報(AMG)構造を示す図。

【図16】 DVDオーディオのタイトル探索ポインタテーブル(TT_SRPT)の構造を示す図。

【図17】 DVDオーディオのオーディオタイトルセット情報(ATSI)の構造を示す図。

【図18】 DVDオーディオでオーディオタイトルセット情報管理テーブル(ATSI_MAT)の構成を示す図。

【図19】 DVDオーディオでビデオタイトルセットメニューのオーディオストリームアトリビュート(ATS_MU_AST_ATTR)の内部構成を示す図。

【図20】 図20(a)はDVDオーディオでオーディオタイトルセットのオーディオストリームアトリビュート(ATS_AST_ATTR)の構成を示す図、図20(b)はオーディオタイトルセットのオーディオストリームアトリビュート(ATS_AST_ATR)の内部構成を示す図。

【図21】 オーディオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュートテーブル(ATS_MU_AST_ATTR)の構成を示す図。

【図22】 図22はオーディオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュート(1)

(ATS_MU_AST_ATRT(1))の拡張(ATS_MU_AST_ATR_EXT(1))の構成を示す図。

【図23】 図23はオーディオタイトルセットのマルチチャンネルオーディオストリームアトリビュート(2)(ATS_MU_AST_ATRT(2))の拡張(ATS_MU_AST_EXT(2))の構成を示す図。

【図24】 DVDオーディオでオーディオオブジェクトセット(AOBS)の構成を示す図。

【図25】 DVDオーディオのバック(pack)構成を示す図。

【図26】 図26はDVDオーディオの各オーディオバック構成を示す図。

【図27】 図27はDVDオーディオの各オーディオバック構成を示す図。

【図28】 図28はDVDオーディオの各オーディオバック構成を示す図。

【図29】 図29はDVDオーディオの各オーディオバック構成を示す図。

【図30】 図26のような構造を有するオーディオバックで線形PCMオーディオパケットの構成を示す図。

【図31】 DVDオーディオの線形PCMオーディオフレームの構成を示す図。

【図32】 図32は線形PCMのサンプルデータ配列を示す図。

【図33】 図33は線形PCMのサンプルデータ配列を示す図。

*

*【図34】 図34は線形PCMのサンプルデータ配列を示す図。

【図35】 DVDオーディオの線形オーディオパケット構成を示す図。

【図36】 DVDオーディオのDTSオーディオパケットの構成を示す図。

【図37】 本発明の実施例によってDVDオーディオの再生装置の構成を示す図。

【図38】 図37でオーディオデコーダの構成を示す図。

【図39】 本発明の実施例によってDVDオーディオ及びDVDビデオを再生する装置の構成を示す図。

【図40】 図39でオーディオ/ビデオデコーダの構成を示す図。

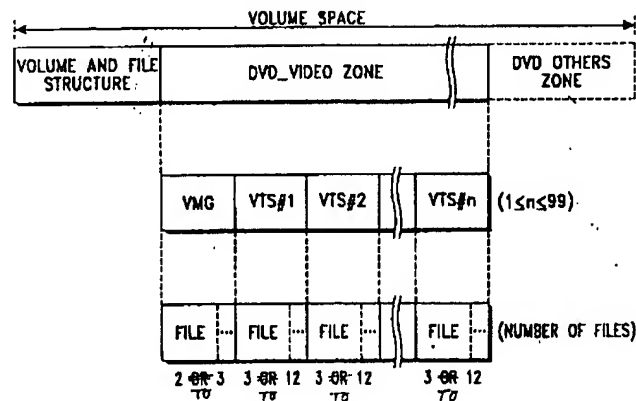
【図41】 DVDオーディオ再生装置でDVDオーディオに記録されたデータを再生する動作を示す流れ図。

【図42】 DVDオーディオ再生装置でオーディオデコーダの動作過程を説明するための流れ図。

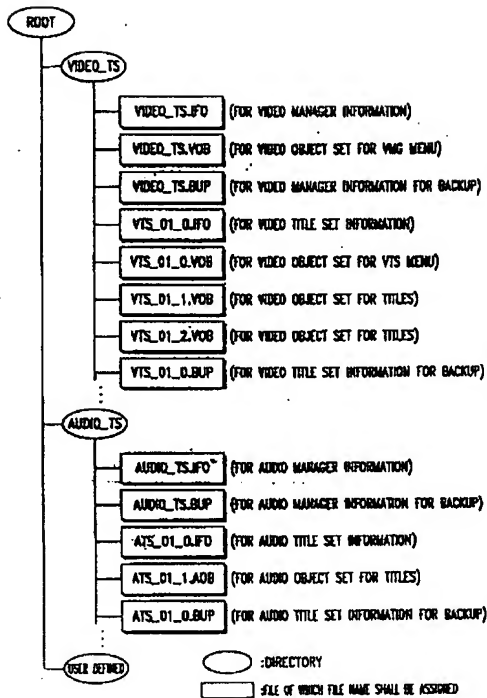
【符号の説明】

111…システム制御部
112…ピックアップ部
113…サーボ制御部
114…データ受信部
115…オーディオデコーダ
116…デジタル制御部
117…オーディオ出力部

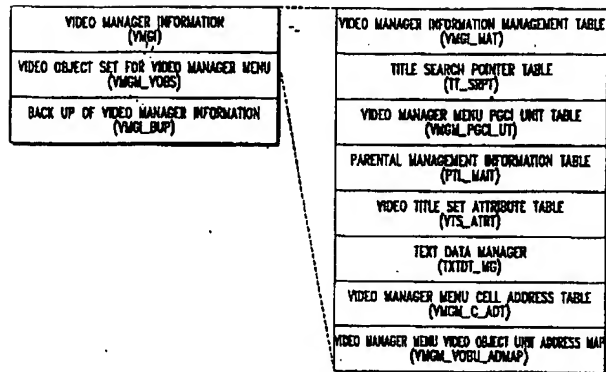
【図2】



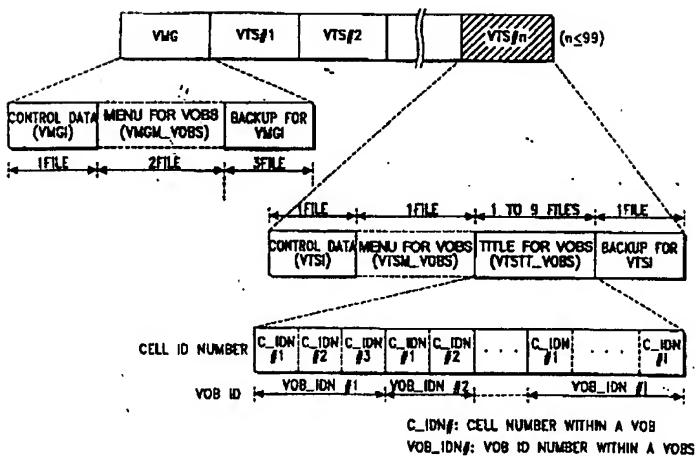
【図1】



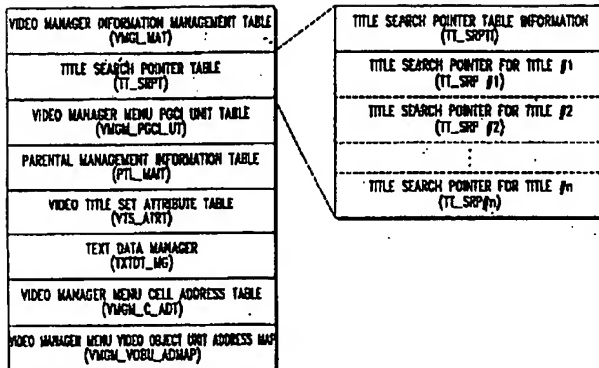
【図4】



【図3】



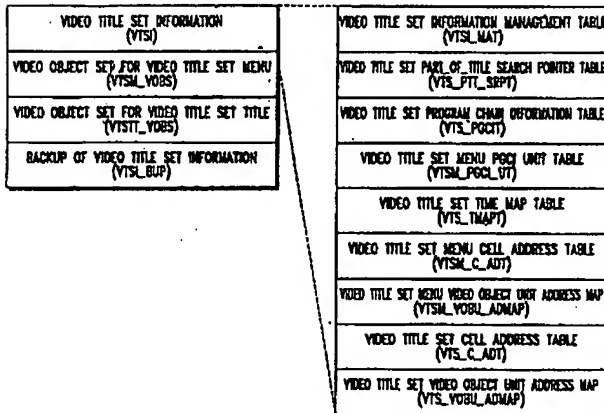
【図5】



【図7】

VTSL_MAT			
RBP		CONTENTS	NUMBER OF BYTES
0 to 11	VIS_ID	VIS IDENTIFIER	12BYTES
12 to 15	VIS_PA	END ADDRESS OF VIS	4BYTES
16 to 27	RESERVED	RESERVED	12BYTES
28 to 31	VIS_EA	END ADDRESS OF VIS	4BYTES
32 to 33	WERN	REGION NUMBER OF DVD VIDEO SPECIFICATION	2BYTES
34 to 37	VIS_CAT	VIS CATEGORY	4BYTES
38 to 127	RESERVED	RESERVED	48BYTES
128 to 131	VTSL_MAY_EA	END ADDRESS OF VTSL_MAY	4BYTES
132 to 181	RESERVED	RESERVED	48BYTES
182 to 195	VISM_VOBU_SA	START ADDRESS OF VISM_VOBU	4BYTES
196 to 199	VISIT_VOBU_SA	START ADDRESS OF VISIT_VOBU	4BYTES
200 to 203	VIS_PIT_SRPT_SA	START ADDRESS OF VIS_PIT_SRPT	4BYTES
204 to 207	VIS_PGCL_SA	START ADDRESS OF VIS_PGCL	4BYTES
208 to 211	VISM_PGCL_UT_SA	START ADDRESS OF VISM_PGCL_UT	4BYTES
212 to 215	VIS_TMAPT_SA	START ADDRESS OF VIS_TMAPT	4BYTES
216 to 219	VISM_C_ADT_SA	START ADDRESS OF VISM_C_ADT	4BYTES
220 to 223	VISM_VOBU_ADMAP_SA	START ADDRESS OF VISM_VOBU_ADMAP	4BYTES
224 to 227	VIS_C_ADT_SA	START ADDRESS OF VIS_C_ADT	4BYTES
228 to 231	VIS_VOBU_ADMAP_SA	START ADDRESS OF VIS_VOBU_ADMAP	4BYTES
232 to 255	RESERVED	RESERVED	24BYTES
256 to 257	VISM_V_ATTR	VIDEO ATTRIBUTE OF VISM	2BYTES
258 to 259	VISM_AST_Nr	NUMBER OF AUDIO STREAMS OF VISM	2BYTES
260 to 267	VISM_AST_ATTR	AUDIO STREAM ATTRIBUTE OF VISM	8BYTES
268 to 303	RESERVED	RESERVED	36BYTES
304 to 309	RESERVED	RESERVED	10BYTES
310 to 341	VISM_SPST_Nr	NUMBER OF SUB-PICTURE STREAMS OF VISM	32BYTES
342 to 347	VISM_SPST_ATTR	SUB-PICTURE STREAMS ATTRIBUTE TABLE OF VISM	6BYTES
348 to 511	RESERVED	RESERVED	164BYTES
512 to 513	VIS_V_ATTR	VIDEO ATTRIBUTE OF VIS	2BYTES
514 to 515	VIS_AST_Nr	NUMBER OF AUDIO STREAMS OF VIS	2BYTES
516 to 579	VIS_AST_ATTR	AUDIO STREAM ATTRIBUTE TABLE OF VIS	64BYTES
580 to 585	RESERVED	RESERVED	10BYTES
586 to 597	VIS_SPST_Nr	NUMBER OF SUB-PICTURE STREAMS OF VIS	12BYTES
598 to 789	VIS_SPST_ATTR	SUB-PICTURE STREAMS ATTRIBUTE TABLE OF VIS	192BYTES
790 to 791	RESERVED	RESERVED	2BYTES
792 to 983	VIS_MU_AST_ATTR	MULTICHANNEL AUDIO STREAM ATTRIBUTE TABLE OF VIS	92BYTES
984 to 1023	RESERVED	RESERVED	40BYTES
1024 to 2043	RESERVED	RESERVED	1024BYTES

【図6】



【図9】

RBP	CONTENTS	NUMBER OF BYTES
782 to 815	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #0	24BYTES
816 to 839	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #1	24BYTES
840 to 863	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #2	24BYTES
864 to 887	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #3	24BYTES
888 to 911	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #4	24BYTES
912 to 935	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #5	24BYTES
936 to 959	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #6	24BYTES
960 to 983	VTS_MU_AST_ATTR OF AUDIO STREAM #7	24BYTES
	TOTAL	192BYTES

【図10】

VTS_MU_AST_ATTR(1)							
b191	b190	b189	b188	b187	b186	b185	b184
AUDIO MIXED FLAG				ACH0 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b183	b182	b181	b180	b179	b178	b177	b176
AUDIO MIXED FLAG				ACH1 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b175	b174	b173	b172	b171	b170	b169	b168
AUDIO MIXING PHASE				ACH2 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b167	b166	b165	b164	b163	b162	b161	b160
AUDIO MIXING PHASE				ACH3 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b159	b158	b157	b156	b155	b154	b153	b152
AUDIO MIXING PHASE				ACH4 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b151	b150	b149	b148	b147	b146	b145	b144
AUDIO MIXING PHASE				ACH5 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b143	b142	b141	b140	b139	b138	b137	b136
AUDIO MIXING PHASE				ACH6 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			
b135	b134	b133	b132	b131	b130	b129	b128
AUDIO MIXING PHASE				ACH7 MIX MODE			
				AUDIO CHANNEL CONTENTS			

【図8】

(a)

VTS_AST_ATR		
RBP	CONTENTS	NUMBER OF BYTES
512 to 527	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 00	BYTES
528 to 543	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 01	BYTES
544 to 559	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 02	BYTES
560 to 575	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 03	BYTES
576 to 591	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 04	BYTES
592 to 607	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 05	BYTES
608 to 623	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 06	BYTES
624 to 639	VTS AST ATR OF AUDIO STREAM 07	BYTES

(b)

VTS_AST_ATR							
b63	b62	b61	b60	b59	b58	b57	b56
AUDIO CODING MODE		MULTICHANNEL EXTENSION		AUDIO TYPE		AUDIO APPLICATION MODE	
b55	b54	b53	b52	b51	b50	b49	b48
QUANTIZATION/DRC		FS		RESERVED		NUMBER OF AUDIO CHANNELS	
b47	b46	b45	b44	b43	b42	b41	b40
SPECIFIC CODE (UPPER BITS)							
b39	b38	b37	b36	b35	b34	b33	b32
SPECIFIC CODE (LOWER BITS)							
b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24
RESERVED (FOR SPECIFIC CODE)							
b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
SPECIFIC CODE EXTENSION							
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8
RESERVED							
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
APPLICATION INFORMATION							

【図11】

VTS_MU_AST_ATR(2)							
b127	b126	b125	b124	b123	b122	b121	b120
a0							
b119	b118	b117	b116	b115	b114	b113	b112
a0							
b111	b110	b109	b108	b107	b106	b105	b104
a1							
b103	b102	b101	b100	b99	b98	b97	b96
a1							
b95	b94	b93	b92	b91	b90	b89	b88
a2							
b87	b86	b85	b84	b83	b82	b81	b80
a2							
b79	b78	b77	b76	b75	b74	b73	b72
a3							
b71	b70	b69	b68	b67	b66	b65	b64
a3							
b63	b62	b61	b60	b59	b58	b57	b56
a4							
b55	b54	b53	b52	b51	b50	b49	b48
a4							

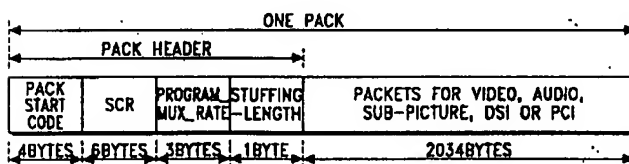
【図12】

b47	b46	b45	b44	b43	b42	b41	b40
a5							
b39	b38	b37	b36	b35	b34	b33	b32
a5							
b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24
a6							
b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
a6							
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8
a7							
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
a7							

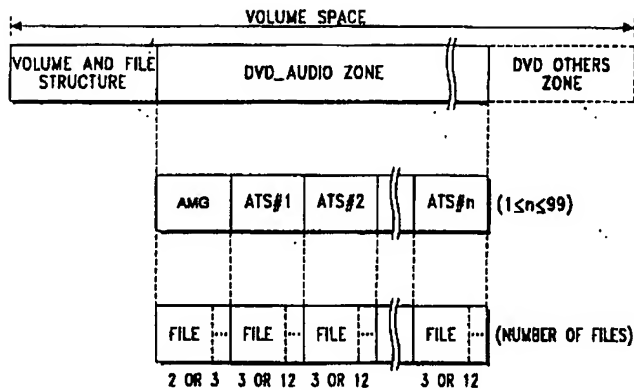
【図15】

AUDIO MANAGER INFORMATION (AMCI)	AUDIO OBJECT SET FOR VIDEO MANAGER MENU (VMSL_VOS)
	BACK UP OF AUDIO MANAGER INFORMATION (AMCI_BUP)
AUDIO MANAGER INFORMATION MANAGEMENT TABLE (AMCI_MAT)	
TITLE SEARCH POINTER TABLE (TL_SRPT)	
AUDIO MANAGER MENU POCL UNIT TABLE (AMCI_POCL_UT)	
PARENTAL MANAGEMENT INFORMATION TABLE (PTL_MAT)	
AUDIO TITLE SET ATTRIBUTE TABLE (ATS_ATTR)	
TEXT DATA MANAGER (TXTDT_MG)	
AUDIO MANAGER MENU CELL ADDRESS TABLE (AMCI_C_ADT)	
AUDIO MANAGER MENU AUDIO OBJECT UNIT ADDRESS MAP (AMCI_AOBJ_ADMAP)	

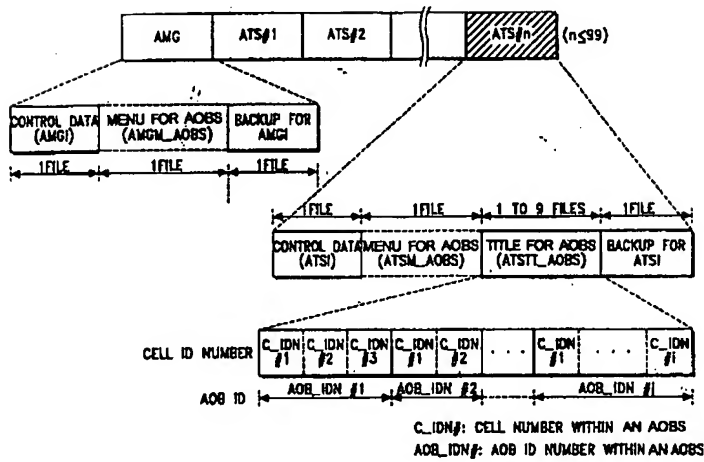
【図25】



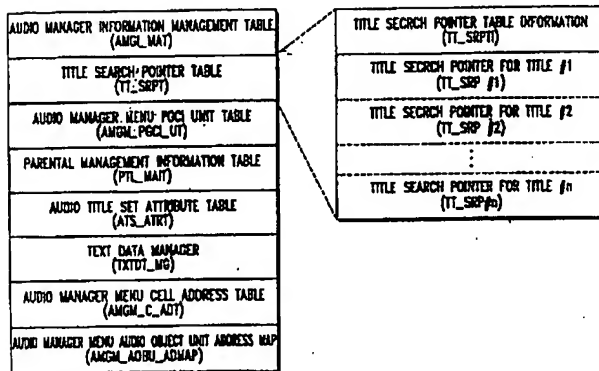
【図13】



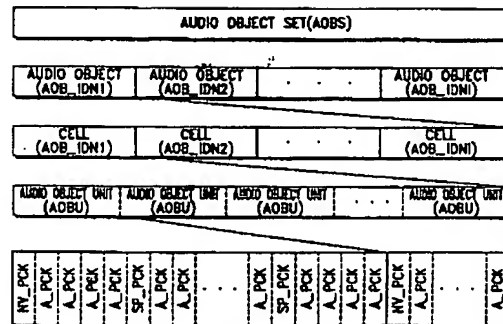
【図14】



【図16】



【図24】



【図21】

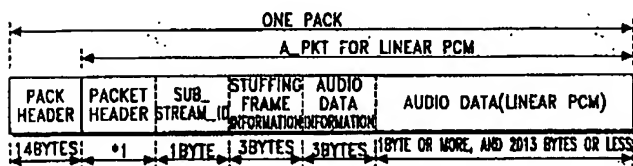
RBP	CONTENTS	NUMBER OF BYTES
792 TO 830	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #0	39BYTES
831 TO 869	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #1	39BYTES
870 TO 908	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #2	39BYTES
909 TO 947	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #3	39BYTES
948 TO 986	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #4	39BYTES
987 TO 1025	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #5	39BYTES
1026 TO 1064	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #6	39BYTES
1065 TO 1103	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #7	39BYTES
1104 TO 1142	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #8	39BYTES
1143 TO 1181	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #9	39BYTES
1182 TO 1220	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #10	39BYTES
1221 TO 1259	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #11	39BYTES
1260 TO 1298	ATS MU AST ATR OF AUDIO STREAM #12	39BYTES
	TOTAL	507BYTES

【図22】

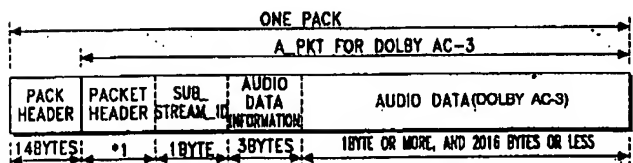
ATS_MU_AST_ATR_EXT(1)

b39	b38	b37	b36	b35	b34	b33	b32
AUDIO MIXED FLAG	ACH8 MIX MODE	AUDIO CHANNEL CONTENTS					
b31	b30	b29	b28	b27	b26	b25	b24
AUDIO MIXED FLAG	ACH9 MIX MODE	AUDIO CHANNEL CONTENTS					
b23	b22	b21	b20	b19	b18	b17	b16
AUDIO MIXED FLAG	ACH10 MIX MODE	AUDIO CHANNEL CONTENTS					
b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8
AUDIO MIXED FLAG	ACH11 MIX MODE	AUDIO CHANNEL CONTENTS					
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
AUDIO MIXED FLAG	ACH12 MIX MODE	AUDIO CHANNEL CONTENTS					

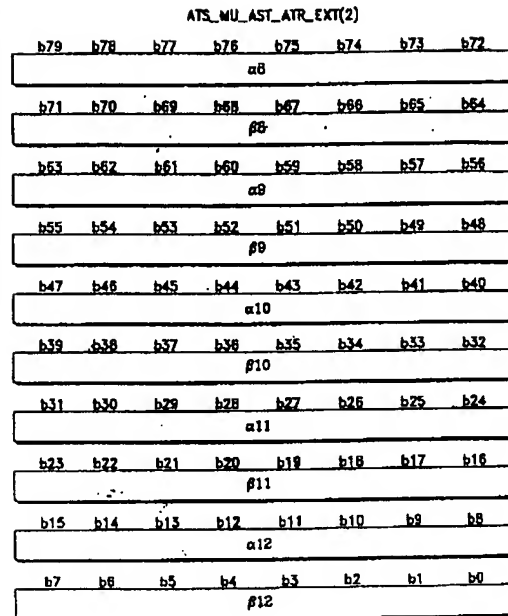
【図26】



【図27】



【図23】



【図42】

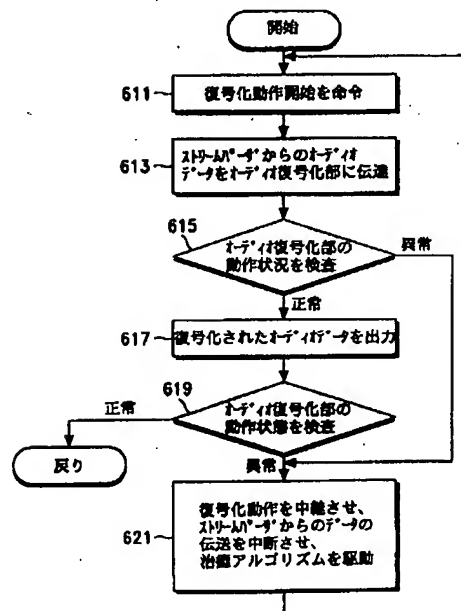


Diagram illustrating the structure of a packet for MPEG audio data:

- The packet is divided into three main sections:
 - PACKET HEADER**: 1 BYTE
 - PACKET IDENTIFIER**: 1
 - AUDIO DATA(MPEG)**: 1 BYTE OR MORE, AND 2020 BYTES OR LESS
- The total packet size is labeled as **ONE PACKET** and **A PACKET FOR MPEG**.

Diagram illustrating the structure of an MPEG audio frame (A_PCK#n). The frame is divided into several sections:

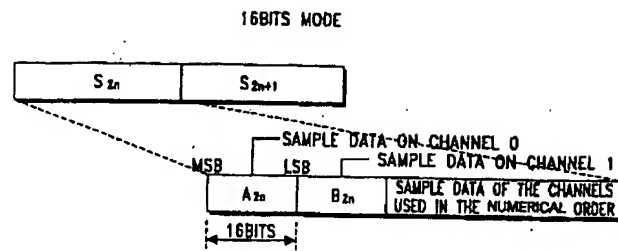
- PACK HEADER** (14 BYTES)
- PACKET HEADER** (1 BYTE OR MORE, AND 152 BYTES OR LESS)
- MAIN AUDIO FRAME#1**
- PACKET HEADER** (1 BYTE OR MORE, AND 152 BYTES OR LESS)
- EXTENSION AUDIO FRAME#1**
- PACKET HEADER** (1 BYTE OR MORE, AND 152 BYTES OR LESS)
- MAIN AUDIO FRAME#1+1**

The frame is also labeled **A_PCK#n** at the bottom.

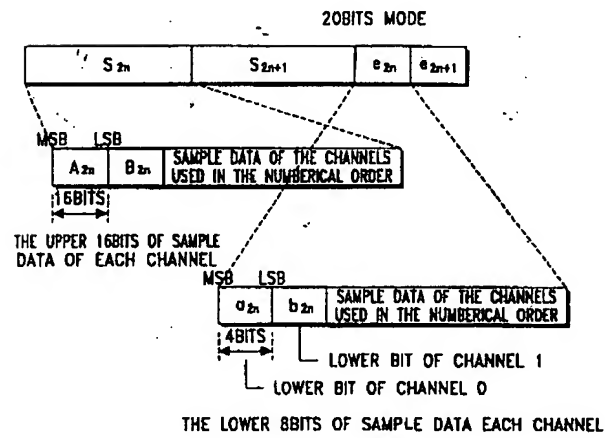
The diagram illustrates the structure of an audio stream and its corresponding packet structure. The top part shows a continuous 'AUDIO STREAM' represented by a long rectangle with a break in the middle. Below this, the stream is segmented into 'AUDIO PACKETS'. The first packet is labeled 'AUDIO PACK 1' and has a duration of '2048BYTES'. This is followed by 'Audio PACK i+1', then a gap, then 'AUDIO PACK j-1', and finally 'AUDIO PACK j'. The last packet, 'AUDIO PACK j', is shaded with diagonal lines and also has a duration of '2048BYTES'. A break symbol is shown between 'Audio PACK i+1' and 'AUDIO PACK j-1'.

The diagram illustrates the structure of an audio stream. At the bottom, a horizontal bar represents the 'AUDIO STREAM', which is divided into three segments labeled GOF_n , GOF_{n+1} , and GOF_{n+2} . Above the GOF_n segment, a dashed line connects it to a larger box labeled 'GROUP AUDIO FRAME (GOF)'. Inside this box, a row of five smaller boxes is shown, with the first and last boxes labeled F_0 and F_4 respectively. A dashed line from the top of the 'GROUP AUDIO FRAME (GOF)' box points to a box labeled 'SAMPLE FRAME', which contains the text 'SAMPLE DATA OF 1/600 SECOND (80 OR 160 SAMPLES)'.

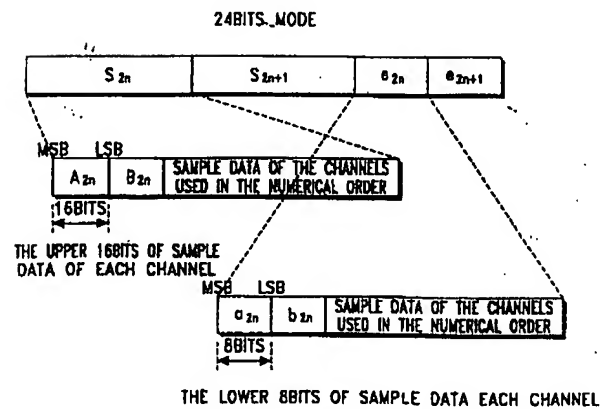
【図32】



【図33】

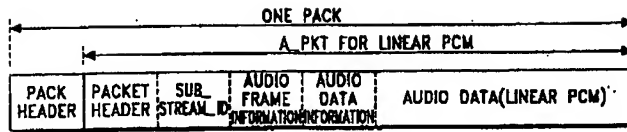


【図34】



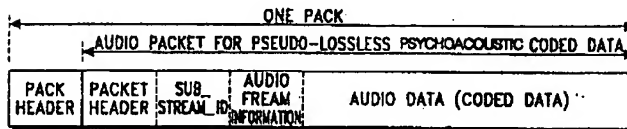
【図35】

AUDIO PACK(LINEAR PCM)

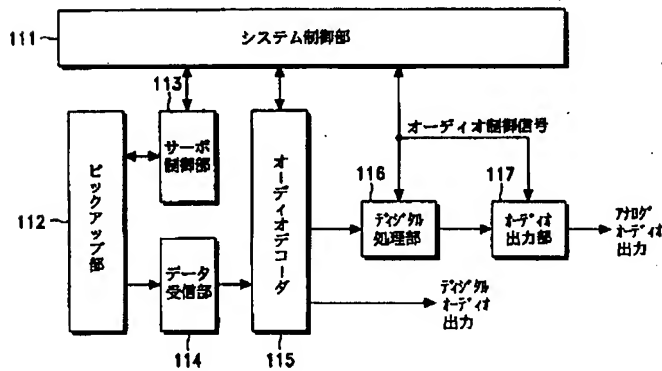


【図36】

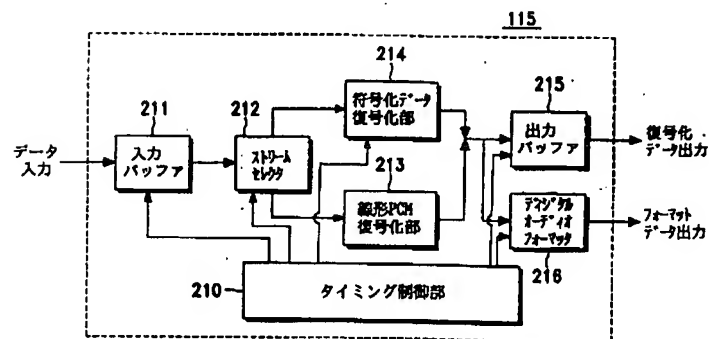
AUDIO PACK(CODED DATA)



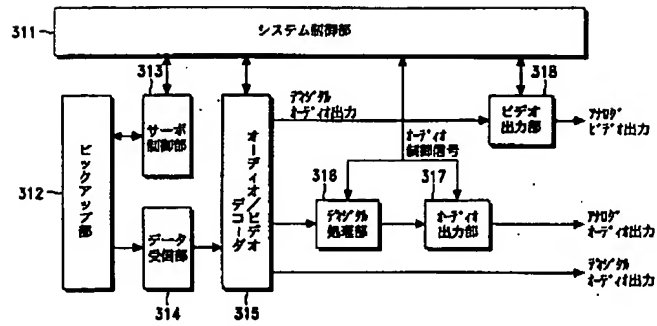
【図37】



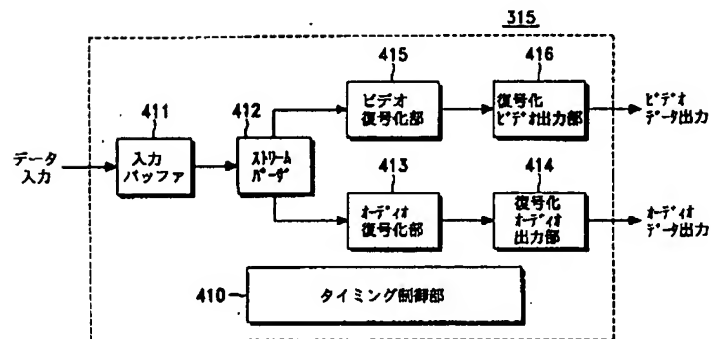
【図38】



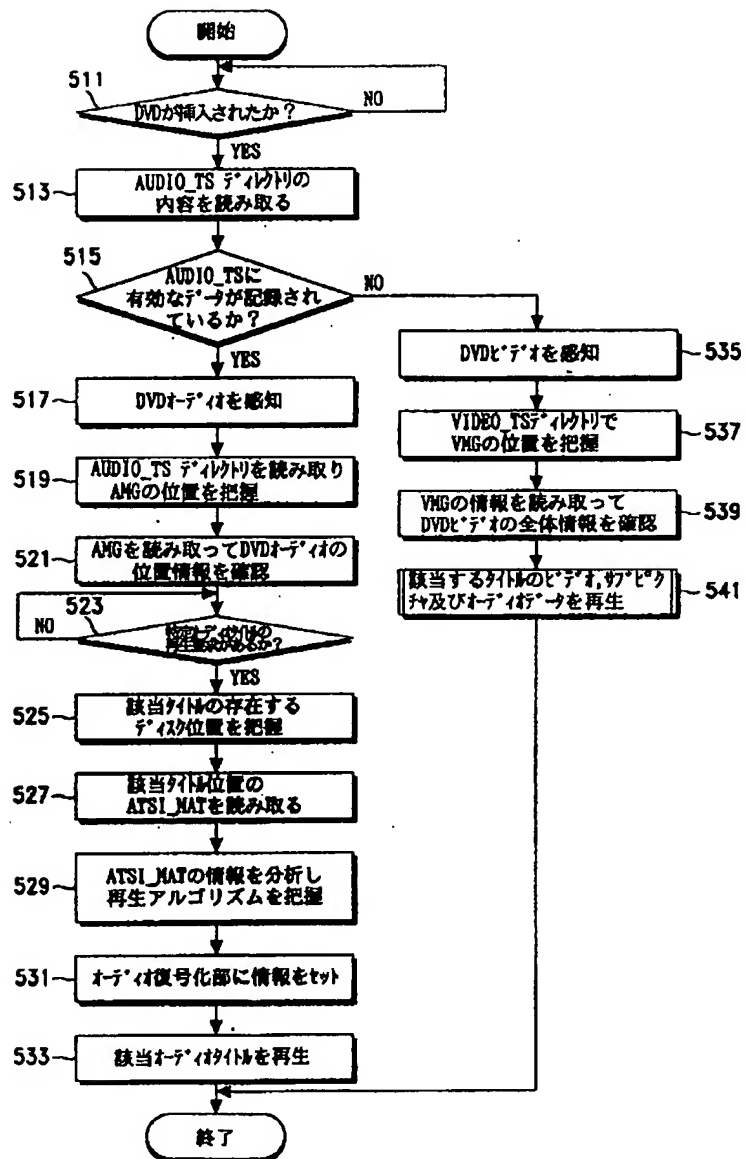
【図39】



【図40】



【図41】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I
G 1 1 B 27/02

テーマコード (参考)

K